

# 市内遺跡調査概報VII

—平成7年度赤祖父羽座間遺跡、平成8年度鶯北新遺跡の調査—

1998年3月

高岡市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、開発工事に伴い実施した赤祖父羽座間遺跡、鷺北新遺跡の発掘調査の概要報告書である。
2. 調査地区は、次の2箇所である。
  - (1) 赤祖父羽座間遺跡、定田地区  
高岡市赤祖父 80番の1
  - (2) 鶴北新遺跡、区画整理地区  
高岡市鶴北新 107-1, 108-1
3. 当調査は、現地調査の経費をそれぞれの事業者に負担していただき、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
4. 報告書作成は、平成9年度市単独事業として高岡市教育委員会文化財課が実施した。
5. 調査関係者は次のとおりである。

文化財課長；田村晴彦  
〔埋蔵文化財係〕  
主幹兼係長；石浦正雄  
係員；山口辰一、横津明義  
荒井一郎、太田浩司
6. 本書における遺構記号は、次のとおりである。  
SE-井戸、SD-溝、SK-土坑
7. 本書における遺物番号は、次のとおりである。  
1001番～赤祖父羽座間遺跡、土器類  
2001番～鷺北新遺跡、土器類  
3001番～鷺北新遺跡、石製品
8. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より御教示、御援助を得た。  
（順不同、敬称略）  
安念幹倫、斎藤 隆、境 洋子、高梨清志、  
橋本正春、宮田進一、邑本順亮
9. 本書の執筆は、荒井が担当した。

## 調査参加者名簿

### 発掘

上田工、小竹山紀子、尾山久美子、垣地慶子、  
門島信也、小林央、佐野實、新谷晴紀子、杉本広政、  
高田えみ子、田中明、田辺幸代、旅剛、塚原厚、  
寺井久子、土合良子、道谷美奈子、中村恭子、  
広沢隆太郎、前田武國、水外一郎、宮下奈津子、  
山城一夫

### 事務

片岡千賀子

### 整理

大田欣和、岡田一広、尾山久美子、垣地慶子、  
木原和美、京田直子、小島善雄、小林央、式庄暁子、  
新谷晴紀子、杉村いく子、高田えみ子、竹脇優子、  
橋英公子、田辺幸代、谷内桜子、寺井久子、  
寺下晶子、道谷美奈子、西本真由美、畠田朋江、  
萩原京、轟薫、針原佳経、福澤雪、藤木麗、  
放生千絵、三浦千秋、三島幸代、水谷祐子、  
村井和佳子、芳川ちひろ

## 目 次

### 例 言

### 目 次

1. 赤祖父羽座間遺跡、定田地区.....	1
I 序 説.....	3
II 遺 備.....	7
III 遺 物.....	11
IV 結 語.....	12
2. 鶴北新遺跡、区画整理地区.....	13
I 序 説.....	15
II 遺 備.....	21
III 遺 物.....	27
IV 結 語.....	29

## 図面目次

- 図面1 遺物実測図 赤祖父羽座間遺跡 土師器、須恵器、珠洲、青磁、越中瀬戸  
図面2 遺物実測図 鶴北新遺跡 弥生土器  
図面3 遺物実測図 鶴北新遺跡 土師器、須恵器、灰釉陶器、瀬戸关淡、越中瀬戸  
図面4 遺物実測図 鶴北新遺跡 珠洲  
図面5 遺物実測図 鶴北新遺跡 珠洲  
図面6 遺物実測図 鶴北新遺跡 珠洲  
図面7 遺物実測図 鶴北新遺跡 珠洲  
図面8 遺物実測図 鶴北新遺跡 管状木製品、管玉形削品、砥石

## 図版目次

- 図版1 遺構 赤祖父羽座間遺跡 1. 調査地区全景（南）  
2. 調査地区全景（北西）  
図版2 遺構 赤祖父羽座間遺跡 1. 溝S D01全景（北西）  
2. 溝S D01全景（南西）  
図版3 遺構 赤祖父羽座間遺跡 1. 溝S D01遺物出土状態近景（内）  
2. 井戸址S E01全景（南）  
図版4 遺構 赤祖父羽座間遺跡 1. 調査風景（南西）  
2. 調査風景（南）  
3. 調査風景（北西）  
図版5 遺構 鶴北新遺跡 1. 調査地区遠景（南）  
2. 調査地区全景（南）  
図版6 遺構 鶴北新遺跡 1. 調査地区全景（北東）  
2. 調査地区北側近景（南）  
図版7 遺構 鶴北新遺跡 1. 井戸址S E01遠景（南）  
2. 井戸址S E01全景（北）  
図版8 遺構 鶴北新遺跡 1. 溝S D02全景（南東）  
2. 溝S D02全景（南）

- 图版9 遗構 鷺北新遺跡 1. 漢S D18全景（北東）  
2. 漢S D18全景（南）
- 图版10 遗構 鷺北新遺跡 1. 漱S D18北京牆土層斷面（南西）  
2. 漱S D18中尖土層斷面（南西）  
3. 漱S D18南齒端土層斷面（北東）
- 图版11 遗構 鷺北新遺跡 1. 土坑S K02遺物出土狀態（南西）  
2. 漱S D01遺物出土狀態（南西）  
3. 漱S D15遺物出土狀態（南）
- 图版12 遗構 鷺北新遺跡 1. 調金風景（南東）  
2. 調金風景（南東）  
3. 調金風景（南西）
- 图版13 遗物 赤祖父羽座間遺跡 1. 土師器、須恵器  
2. 珠洲、青磁、越中繩戶
- 图版14 遗物 鷺北新遺跡 1. 弥生土器  
2. 弥生土器
- 图版15 遗物 鷺北新遺跡 1. 土師器、須恵器、灰釉陶器、瀬戸美濃、越中繩戶  
2. 珠洲
- 图版16 遗物 鷺北新遺跡 1. 珠洲  
2. 珠洲
- 图版17 遗物 鷺北新遺跡 1. 珠洲  
2. 珠洲
- 图版18 遗物 鷺北新遺跡 石製品

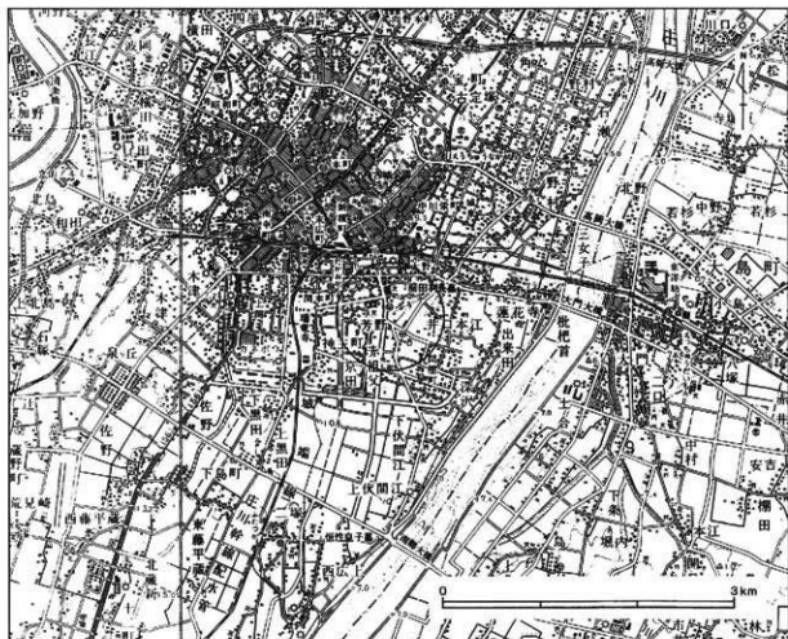
## 挿 図 目 次

第1図 赤祖父羽座間遺跡位置図 (1/5万) .....	2
第2図 赤祖父羽座間遺跡調査地区位置図 (1/5,000) .....	3
第3図 赤祖父羽座間遺跡全体図 (1/400) .....	5
第4図 赤祖父羽座間遺跡遺構図 (1/200) .....	6
第5図 赤祖父羽座間遺跡井戸址 S E01実測図 (1/40) .....	7
第6図 赤祖父羽座間遺跡溝 S D01実測図 (1/80) .....	8
第7図 赤祖父羽座間遺跡溝 S D01上層断面図 (1/40) .....	9
第8図 鶯北新遺跡位置図 (1/5万) .....	14
第9図 鶯北新遺跡調査地区位置図 (1/5,000) .....	15
第10図 鶯北新遺跡全体図 (1/600) .....	17
第11図 鶯北新遺跡遺構図北側 (1/200) .....	18
第12図 鶯北新遺跡遺構図中央 (1/200) .....	19
第13図 鶯北新遺跡遺構図南側 (1/200) .....	20
第14図 鶯北新遺跡溝 S D18実測図 (1/80) .....	26

## 1. 赤祖父羽座間遺跡、定田地区

## 赤祖父座間遺跡定田地区、目次

I 序 説	3	III 遺 物	11
II 遺 構	7	IV 結 語	12
1. 井戸址	7		
2. 溝	7		



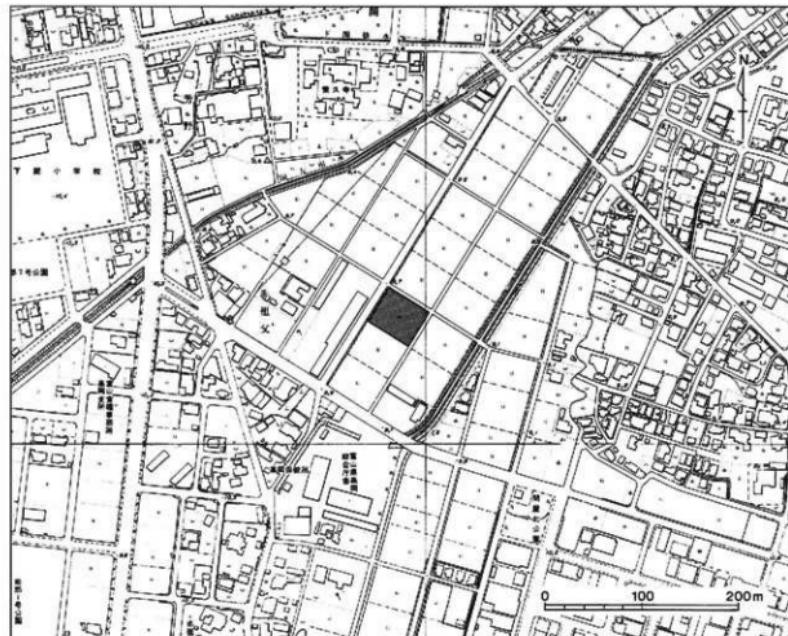
第1図 赤祖父羽座間遺跡位置図 (1/5万)

## I 序 説

### 遺跡概観

当「赤祖父羽座間遺跡」は高岡市街地の南東郊、JR高岡駅の南東約1.2kmに位置する。また、北側には古城公園（高岡城）の位置する洪積台地の高岡台地がある。西側には千保川が流れ、東側には庄川が流れ、これらに挟まれた沖積低地に当遺跡は立地している。庄川の形成した扇状地の末端部に当たり、標高は9m前後を計る。

周辺の遺跡としては、南南東側に、縄文晩期から奈良・平安時代に至る高岡問屋センター遺跡、南東側に弥生時代を主体とする赤祖父角田遺跡と奈良時代から中世にわたる出来田南遺跡がある。赤祖父角田遺跡からは昭和21年に弥生土器の壺の完形品が採集されている。高岡問屋センター遺跡は、問屋センターの造成の際に発見されている。現在ではその範囲と性格を把握することはできていないが、比較的狭い範囲にまとまっているため、赤祖父角田遺跡と同一の遺跡である可能性が考えられる。東側には奈良時代から中世に至る



第2図 赤祖父羽座間遺跡調査地区位置図 (1/5,000)

井口本江遺跡があり、井口本江集落の東側一帯に位置している。北側には前田墓所遺跡があり、北西側一帯にかけて八丁道遺跡、瑞龍寺遺跡といった近世の遺跡群が立地する。前田墓所遺跡は、加賀藩2代藩主前田利長の廟所として正保3年（1646年）に造営された。明治以降、大きく改変されたが、かつては二重の堀で囲まれた約5万坪の規模であったとされ、現在、県指定史跡となっている。瑞龍寺遺跡は、加賀藩3代藩主前田利常が先代藩主前田利長の菩提寺として建立した曹洞宗高岡山瑞龍寺である。現在の伽藍配置は、正保2年（1645年）に造営が開始され、寛文年間までに完成したとされている。その後、延享3年（1746年）に火災に遭い、一部の堂舎が改変されているが、総門、仏殿、法堂などは創建当時の姿を止めているといわれ、これらは平成9年度に国宝に指定されている。八丁道遺跡は、瑞龍寺遺跡と前田墓所遺跡を結ぶ参道である。長さが約八丁（約870m）であることから八丁道と呼ばれている。江戸時代には、道の両脇に石灯籠と松が並んでいたと伝えられる。大正2年には、古城公園等とともに整備され桜並木となっている。昭和62年度から八丁道歴史的景観整備事業が実施され、それに伴う発掘調査がなされた。当遺跡の南西側の沖積低地一帯には弥生時代から近世にわたるH.S.-02遺跡がある。

当遺跡の既往の調査では、昭和63年度に「富山県高岡総合庁舎」の北側で試掘調査を実施したところ、占墳から奈良時代の遺構と土師器・須恵器が出土し、この付近が遺跡の中心部にあたると想定されている。平成2年度には、県総合庁舎東側の水田にて試掘調査を実施したが、遺構・遺物が検出されず、遺跡の範囲外であることが確認されている。加えて同年に当山埋蔵文化財分布調査が下関地区で実施され、遺跡の内容と範囲が調査され、総括されている。この際、当遺跡では占墳時代から奈良時代の遺物が採集され、平安時代・中世の遺物も若干確認されている。遺跡の範囲は、総合庁舎の北側一帯の南北260m×東西220mである。

#### 調査に至る経緯

平成7年4月に市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と宅地造成計画を知った。このため地主の辻田平氏と協議、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。その結果、土坑や溝が検出され、土師器・須恵器等の遺物が多量に出土した。この試掘調査の結果を受け、再度、協議を行い、同年同月に本調査を実施することになった。調査地区は、富山県高岡総合庁舎の北側、高岡開発センターの北西側、繁久寺の南側で遺跡の西側中央部に当たる。

#### 調査経過

発掘調査は、平成7年5月9日から同年5月31日まで実施した。実働調査日数は15日である。調査地区的中央部を発掘区とし、表土の除去はバックフォーで行い、調査地区的周囲に積み上げた。調査地区周囲が耕上地で囲まれたために、排水の便が悪く、降雨の度に調査地区全域が水没し、排水作業にかなりの時間を要した。また、調査地区的周囲で造成工事が並行して行われたため、作業は工事側との調整を計りながら行った。表土掘削後に、遺構の確認をしながら遺構の掘り下げや記録の作成を行った。調査対象面積は1,997m<sup>2</sup>で、発掘対象面積は756m<sup>2</sup>である。

#### 基本層序

平均15cm前後の耕作土の下に、厚さ15cm前後で茶褐色粘質土が堆積しており、区画整理に伴う整地土層と思われる。この下層に地山が現れる。地山は黄褐色粘質土からなり、大きな起伏ではなく、南側へ緩やかに落ち込んでいる。南東側で一部、地山層の下層に腐植を含む黒色土層が見られたが遺物等ではなく、自然堆積による土層と思われる。地山層は戦後行われた区画整理等により、削平を受けるなどの改変がなされたと思われ、調査地区全般で遺物包含層は見られなかった。

### 検出遺構

検出遺構は次のとおりである。

井戸址 1基 (SE01)、溝12条 (SD01~12)

この他に、ビット7基を検出している。調査地区全域で遺構が検出されたが、南側の遺構は深いものが多く北側に比べ深く削平を受けていると思われる。

### 出土遺物

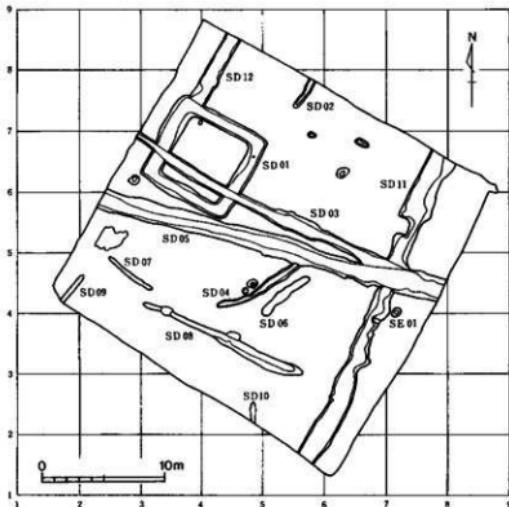
出土遺物は次のとおりである。

土器・陶磁器類；土師器、須恵器、珠洲、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、伊万里

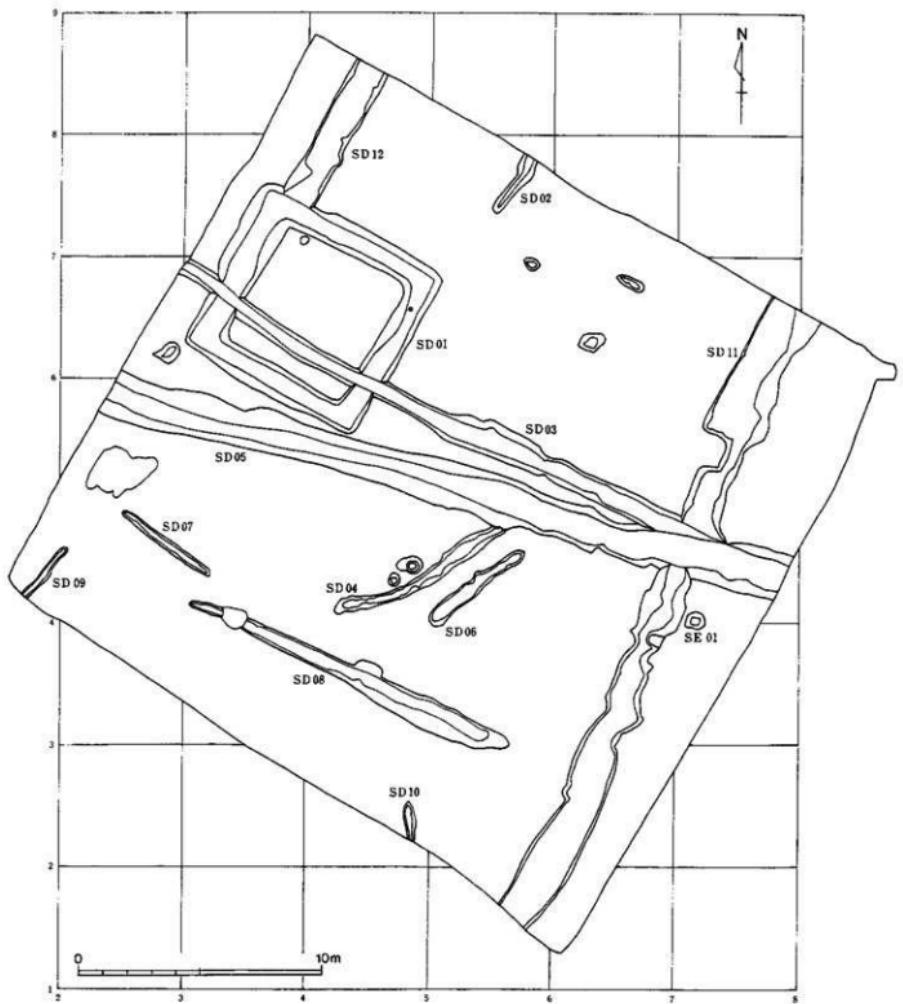
瓦；焼し瓦、釉薬瓦

### グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表すものとした。X = 1、Y = 1の地点は、原点より、西へ12.545km、北へ81.110kmへ向かった位置である。一辺5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第3図 赤祖父羽座間遺跡全体図 (1/400)



第4図 赤祖父羽座間遺跡遺構図 (1/200)

## II 遺構

### 1. 井戸址

#### 井戸址 S E 01

調査地区的(7, 3・4)区で検出された素掘りの井戸である。平面形は橢円形を呈し、規模は径0.8m、確認面からの深さは1.3mである。出土遺物は、中世土師器、珠洲である。

### 2. 溝

#### 溝 S D 01

調査地区的北西側で検出された方形に遡る溝である。規模は、幅105~165cm、外周の一辺が7.2~8.0mの正方形に近い形状を呈している。溝の深さは35cmである。方位は、真北より北東方向へ約30度振っている。さらにこの溝に囲まれた内側で方形の地山土を検出した。地山土は上部が削平されてもいるが、一辺が5.3~5.5mを成す正方形に近い形状を呈している。北端部で一箇所ピットが検出されている。また、南西側をS D 03に切れられ、北側でS D 12を切っている。なお、溝の土層断面図は第7図に、土層の場所は平面図の第6図に示した。土層は基本的に次のように分類される。

第I層； 第1層， 黒褐色粘質土層

第II層； 第2層， 黒色粘質土層

第III層； 第3~5層， 灰褐色シルト層

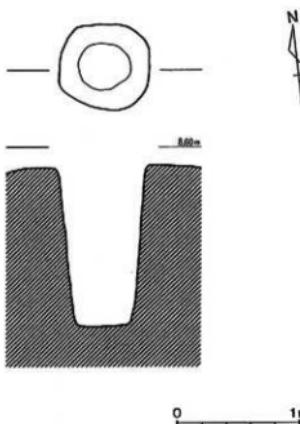
基本的に第I層~第III層は同時期のもので、第II層から中世土師器が出土していることから中世の土層と考えられる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲がある。図示した遺物は、図面1-1001・1002・1010である。

#### 溝 S D 02

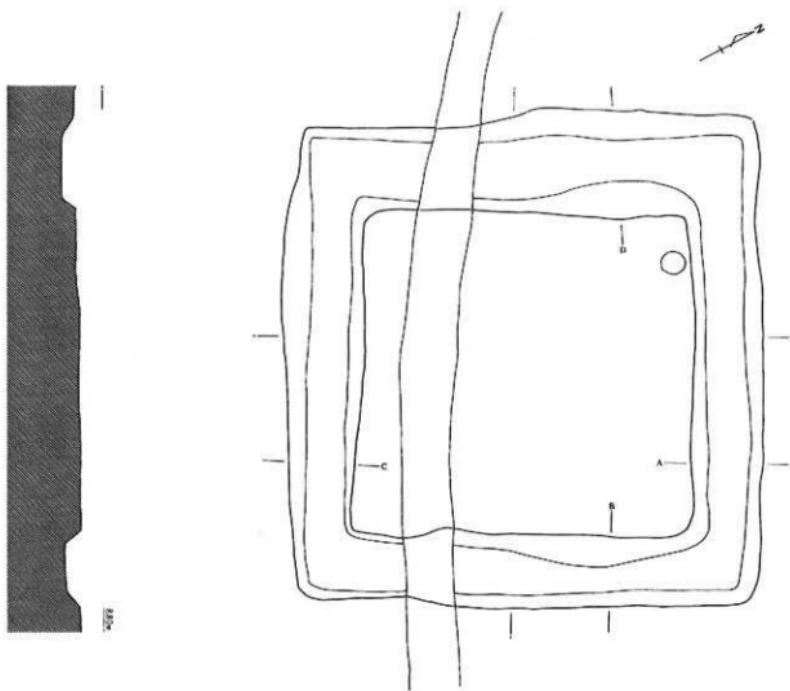
調査地区的北側で検出された。直線的に北東から南西方向へ走る。規模は長さ2.6m以上で、幅は40~65cm、深さ30cmを計り、北東側は調査地区外へ延びる。出土遺物は中世土師器、珠洲である。図示した遺物は、図面1-1020である。

#### 溝 S D 03

調査地区的中央部で検出された。北西から南東方向へ走る溝である。規模は長さ24.6m以上で、幅70~160cm、深さは27cmを計る。北西側で調査地区外へ延び、また、西側ではS D 01を

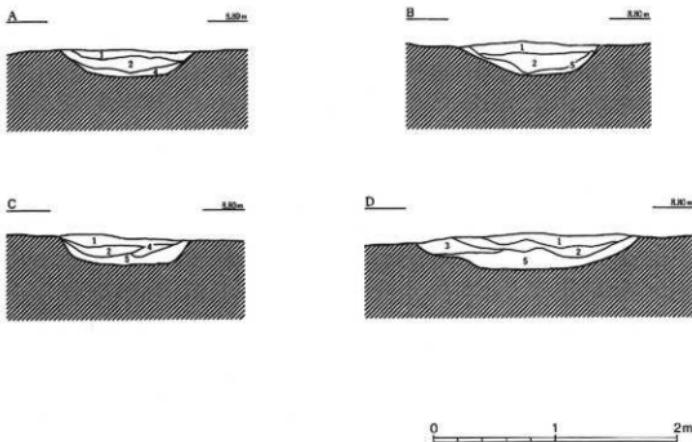


第5図 赤祖父羽座間遺跡  
井戸址 S E 01実測図 (1/40)



0 1 2m

第6図 赤祖父羽座間遺跡溝S D 01実測図 (1/80)



第7図 赤祖父羽座間遺跡溝SD01土層断面図 (1/40)

切っており、東側ではSD05・11と交差している。切り合はSD11を切り、さらにSD05に切られている。出土遺物は土師器、須恵器、珠紋である。図示した遺物は、図面1-1015である。

#### 溝SD04

調査地区的中央部南側で検出された。北東から南西方向へ走る溝である。規模は、長さ7.4m以上で、幅は40~70cm、深さは13cmを計る。北東側でSD05に切られている。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD05

調査地区的中央部で検出された。直線的に西北西から東南東へ走る溝である。規模は長さ28.6m以上で、幅は135~200cm、深さは27cmを計る。西側と東側で調査地区外へと延びる。また、東側ではSD03・11を切っている。出土遺物は須恵器、中世土師器、瀬戸美濃、伊万里である。図示した遺物は、図面1-1004である。

#### 溝SD06

調査地区的中央部南側で検出された。ほぼ直線的に北東から南西方向へ走る溝である。規模は長さ4.8m、幅は50~70cm、深さは10cmを計る。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD07

調査地区的西側で検出された。ほぼ直線的に北西から南東方向へ走る溝である。規模は長さ4.4m、幅は20~45cm、深さは8cmを計る。遺物は出土しなかった。

#### **溝 S D08**

調査地区的南側で検出された。直線的に西北西から東南東へ走る溝である。規模は、長さ14.2m、幅は35~120cm、深さは11cmを計る。また、溝の中央と西側では一部カクランに切られている。出土遺物は土師器、珠洲である。

#### **溝 S D09**

調査地区的西端部で検出された。確認できた範囲が小規模であるが、あえて溝とした。ほぼ直線的に北東から南西方向へ走る。規模は、長さ2.8m以上で、幅は25~40cm、深さは15cmを計る。南西側で調査地区外に延びる。遺物は出土しなかった。

#### **溝 S D10**

調査地区的南端部で検出された。検出した範囲では溝となるか不明だが、直線的に北から南方向へ走るのを溝とした。規模は、長さ1.8m以上で、幅は20~40cm、深さは6cmを計る。南側で調査地区外に延びる。遺物は出土しなかった。

#### **溝 S D11**

調査地区的東端で検出された。ほぼ直線的に北北東から南南西方向へ走る溝である。規模は、長さ27m以上で、幅は80~255cm、深さは15cmを計る。遺構上部は削平を受けていると思われ、不規則な形状となる箇所も見られる。北北東側と南南西側で調査地区外へ延びる。また、溝の中央部でS D03・05に切られている。出土遺物は土師器、須恵器、中世土師器である。

#### **溝 S D12**

調査地区的北端部で検出された。北東から南西へ直線的に走る溝である。規模は、長さ5.8m以上で、幅120~150cm、深さは9cmを計る。南側はS D01に切られている。北側で調査地区外へ延びる。出土遺物は、須恵器、中世土師器である。

### III 遺 物

#### 土師器

皿 図面1-1001~1006。井口クロ調整の皿で、1001・1003~1005は口縁部外面に1段のナデを施している。1002は口縁部外面に2段のナデを施してある。

#### 須恵器

杯口縁部 図面1-1007・1008。杯身の口縁部である。

杯B 図面1-1009~1012。高台の付く杯身の底部片である。

杯蓋 図面1-1013・1014。杯蓋の口縁部片である。

甕 図面1-1015。甕の口縁部～肩部である。

#### 珠洲

擂鉢 図面1-1016・1017。擂鉢の口縁部である。1016は口端部外面に面取りしてあるが、オロシ目は見られなかった。1017は、口端部外面に面取りしてあり、12条のオロシ目がつく。

擂鉢底部 図面1-1018~1020。擂鉢の底部である。1018は、12条のオロシ目がつく。1019・1020はオロシ目は見られなかった。

#### 青磁

椀 図面1-1021。椀の底部である。蓮弁文がつく。

#### 越中瀬戸

椀 図面1-1022。天日茶碗の底部である。鉄釉が内外面に施されている。

皿 図面1-1023・1024。皿の口縁部である。1023には灰釉が施されている。1024には鉄釉が施されている。

皿底部 図面1-1025・1026。皿の底部片である。

## IV 結語

赤祖父羽座間遺跡は、昭和61年度に実施された遺跡中央部の試掘調査および平成2年度の南東部の試掘調査、さらに当遺跡を含む下関地区的分布調査によって、その範囲と性格が明らかにされてきた。今回の調査では、主に中世の遺構、遺物が検出され、その存在が具体的に確認された。また、調査地区の西側で溝S D 12他の遺構が検出されたことから、遺跡の範囲が更に西へ広がる可能性が高い。

### 奈良・平安時代の遺構と遺物

この時期の遺構は検出されなかったが、各遺構や表上中から少數ながら須恵器等の遺物が出土している。時期としては、奈良時代後半から平安時代初めの遺物が中心と思われる。また、昭和63年の調査では古墳～奈良時代の遺構、遺物が検出されており、調査地区の南側で、この時期の遺構の存在が想定される。

### 中世の遺構と遺物

中世の遺構は井戸址1基（S E01）、溝11条（S D01～04・06～12）である。今回の調査では中世前半の遺物が最も多く出土し、検出した遺構の大半はこの時期のものである。また、調査地区北西側で方形に巡る溝S D01を検出し、その内側にはほぼ正方形の地山があり、塚状の遺構となる可能性がある。この溝から出土した土器類、珠洲等の遺物から、時期は中世前半に属するものと思われる。しかし今回の調査では、遺構の性格については特定できる遺物などが検出できなかったため具体的には不明である。またS D01はS D03に切られているが、出土遺物から時期に大きな差はないと思われる。S D11・12は上部を削平されているが、直線的に延びているため、本来大規模な溝であった可能性がある。これらの溝は、S D01と南北方向を同じくすることから、何らかの関連性があると思われる。今回の調査のみでは、当調査地区全体の把握が困難なため、今後の調査の結果を加えた上で検討を必要とする。

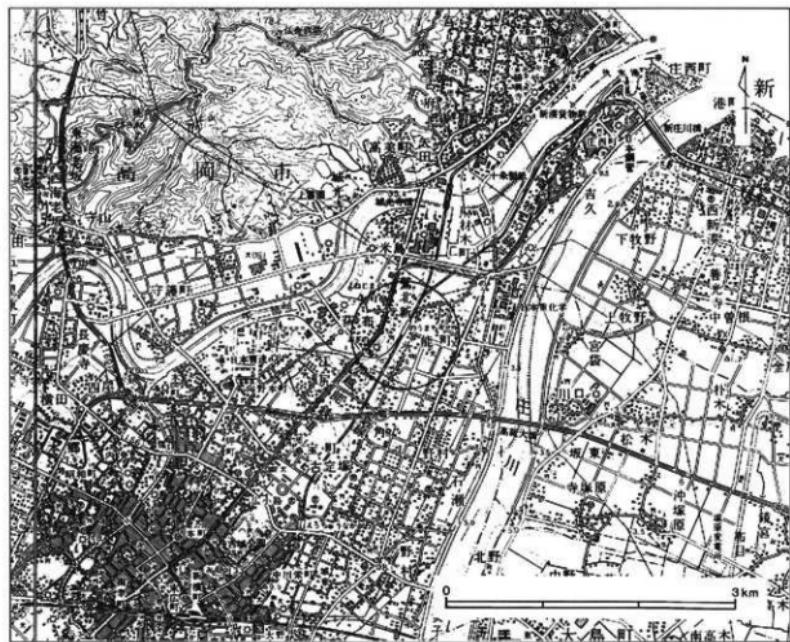
### 近世の遺構と遺物

近世の遺構としては溝S D05がある。調査地区東側で中世の溝S D03・11を切っており、さらに近年の暗渠に切られている。遺物においては伊万里等の近世陶磁器が出土していることから、近世のものとした。このほか、表上中より越中漬戸や、焼し瓦等の遺物が散発的に出土している。

## 2. 鶩北新遺跡、区画整理地区

## 2. 鶯北新遺跡区画整理地区、目次

I 序 説	15	III 遺 物	27
II 遺 構	21	1. 土器類	27
1. 井戸址	21	2. 石製品	28
2. 土坑	21		
3. 溝	23	IV 結 語	29

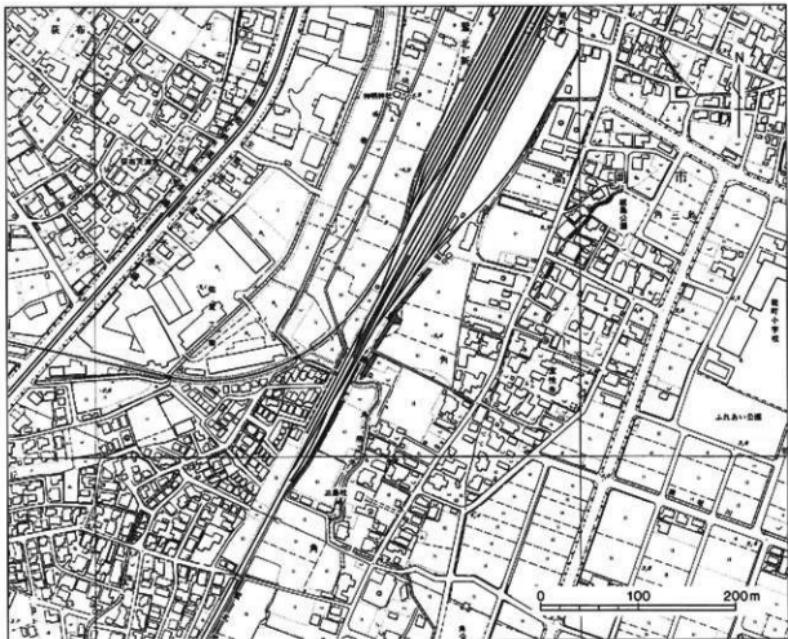


第8図 鶯北新遺跡位置図 (1/5万)

## I 序 説

### 遺跡概観

当「鷺北新遺跡」は、高岡市街地の北東郊、JR高岡駅の北東約3.6kmに位置する。遺跡中央部を南西から北東方向にJR氷見線が走り、JR能町駅が立地する。南方には東西に国道8号線が走っている。遺跡は西方の小矢部川、東方の庄川に挟まれた場所に位置する。かつての庄川は、下石瀬から能町地区を分断するように流れ、遺跡の北側で小矢部川と合流していたが、明治33年から大正元年にかけての庄川改修工事によって現在の流路に付け替えられた。北側には、荻原から吉久方向にかけて旧街道が走る。当遺跡はこれらに囲まれた標高約5mの微高地に位置する。周辺には、当遺跡の北東側に奈良時代から平安時代の遺跡として古宮遺跡がある。南側に奈良時代から平安時代にわたる旭ヶ丘遺跡がある。いずれの遺跡も宅地化により、現在においても範囲などは不明である。当遺跡の範囲は東西140m×南北320mである。これは平成6年度に実施した分布調査によって、新たに範囲を設定したものである。



第9図 鷺北新遺跡調査地区位置図 (1/5,000)

## 調査に至る経緯

平成8年、市都市計画課の照会で、当該地の農地転用と住宅団地造成計画を知った。そこで、高岡市能町駅南土地区画整理組合・市都市計画課と協議し、承諾を得て平成8年5月に試掘調査を実施した。その結果、上坑や溝が検出され、土師器、須恵器等の遺物が多量に出土した。これを受け、その後の協議により、同年6月に本調査を行うこととなった。調査地区は、JR能町駅の南南西側に隣接し、能町小学校の西側、旭ヶ丘団地の北東側に位置している。

## 調査経過

発掘調査は、平成8年6月3日から同年7月16日まで実施した。実働調査日数は28日間である。調査と並行して住宅団地造成工事がなされたため、協議の結果、調査地区の設定は道路敷の部分に限定して行った。

表土の除去はバックフォーで行い、場内に積み上げた。周囲に排水路がなく、梅雨の時期と重なったことから、排水作業にはかなりの時間を費やした。このため、急遽、調査地区から外部へ排水溝を設定して作業の進展を計った。遺構の検出後、掘り下げおよび実測等の記録作成を行った。当初、予想していた以上に大規模な溝等が検出され、やむを得ず期間を延長した。

調査対象面積は1.9haで、683m<sup>2</sup>の発掘を実施した。

## 基本層序

厚さ30~40cmの耕作土の下に、厚さ20cm前後で赤褐色粘質土の層があり、耕地整理の際の盛土層と思われる。この層は調査地区内で部分的にみられる。調査地区内の大部分は、表土の下から黄褐色粘質土の地山土が現れ、一部青灰色粘質土の地山土が現れる。遺物包含層は部分的に僅かにみられる程度である。調査地区周辺は耕地整理の際に削平等の改変を受けていると思われる。また、調査地区南端部では、カクランが見られ、一部地山面まで及んでいる。

## 検出遺構

検出遺構は次の通りである。

井戸址2基（S E01・02）、上坑18基（S K01~18）、溝19条（S D01~19）

この他に、ピットが5箇所検出された。

## 出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器・陶器類；弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、珠洲、八尾、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸

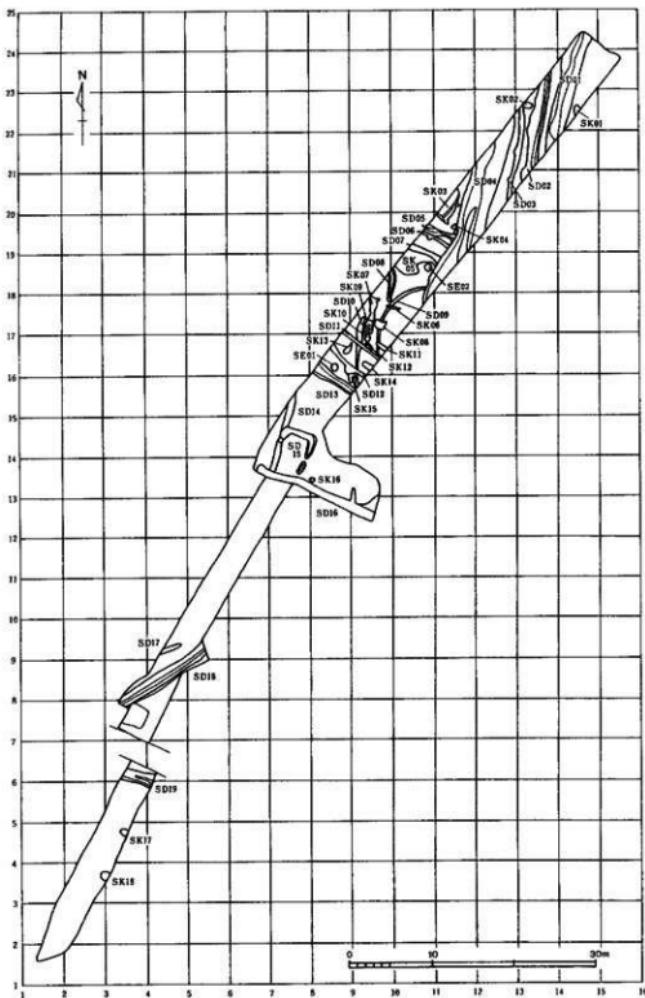
土製品；織羽口

石製品；緑色凝灰岩管玉（未製品・形制品）、砥石

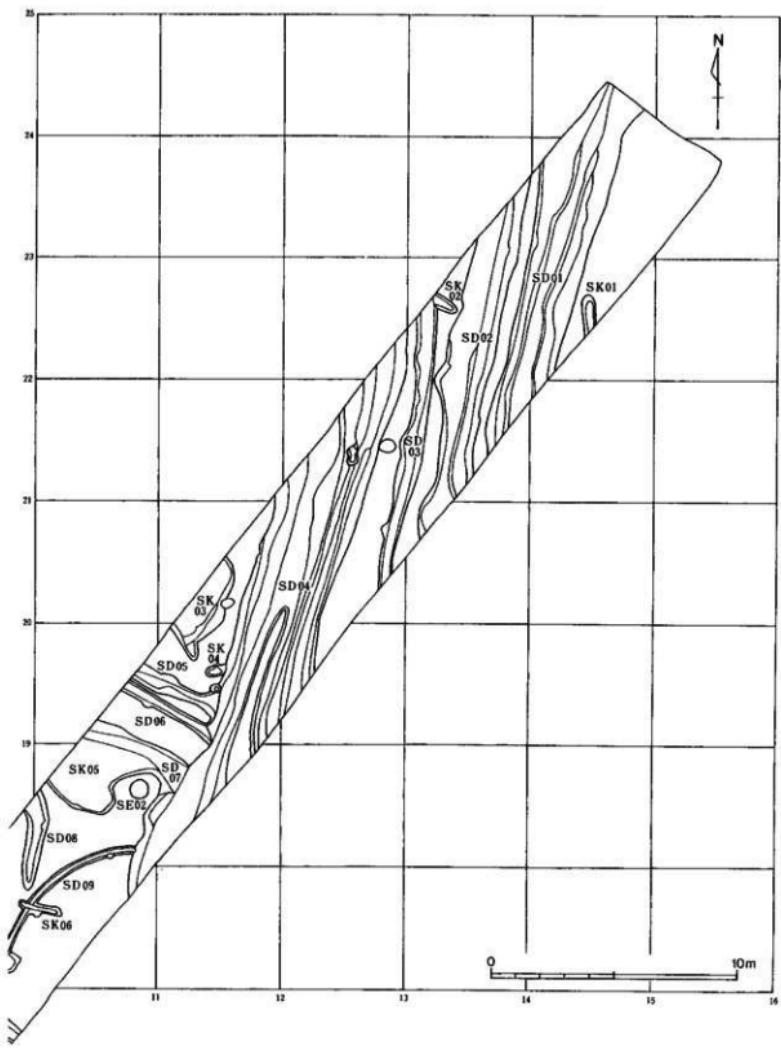
その他；犬保通宝

## グリッド

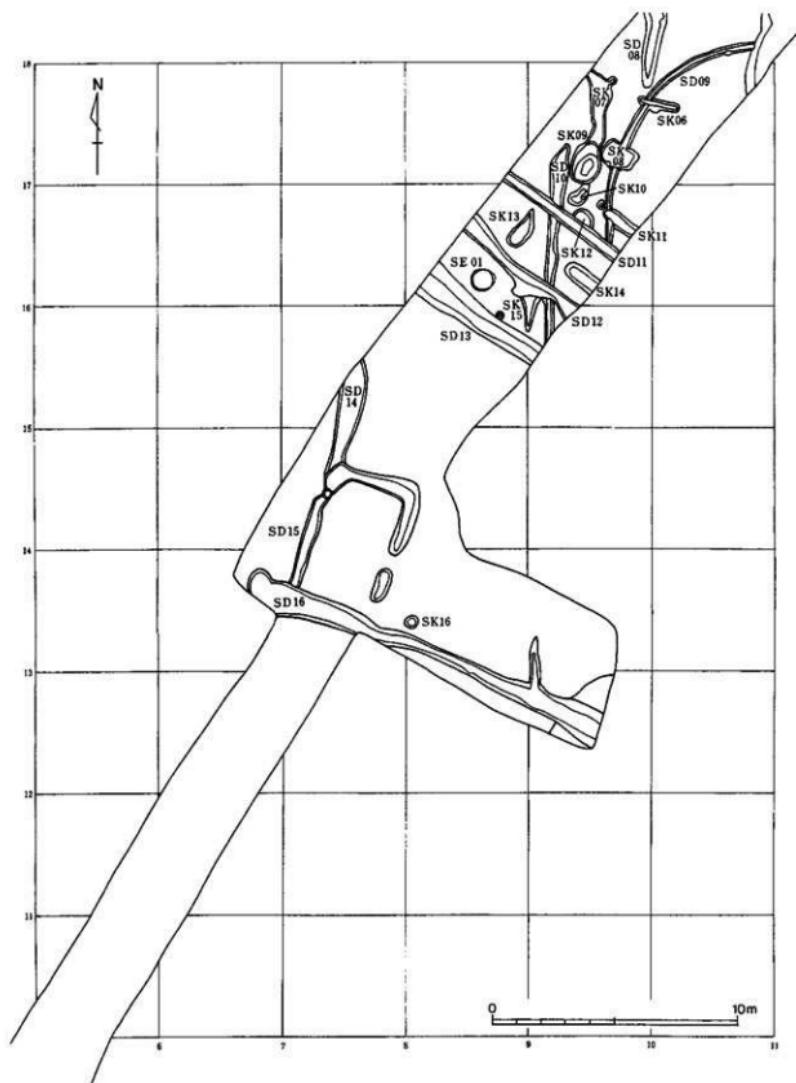
調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"、東経137° 10' 00"）に合わせた。メッシュの表示は一辺5m四方を一つの区画とし、東西をX軸、南北をY軸とした。左斜め下の数値がそのグリッドを表すものである。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ11.230km、北へ84.580kmの位置である。



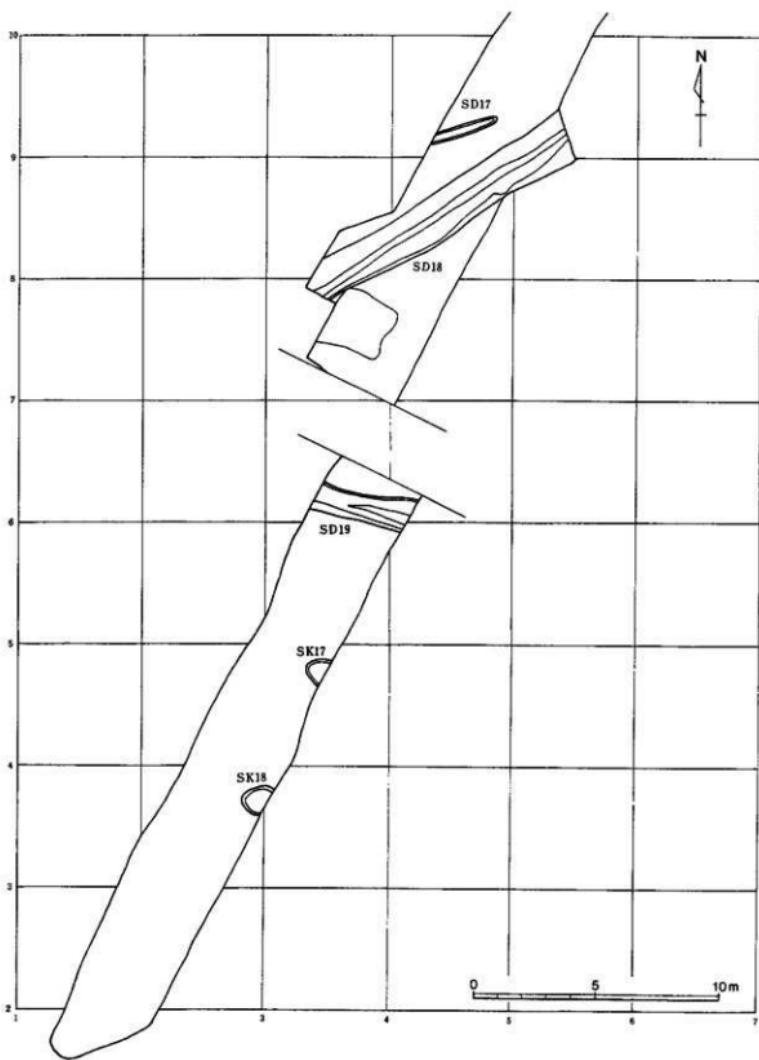
第10図 鶴北新遺跡全体図 (1/600)



第11図 舊北新遺跡遺構図北側 (1/200)



第12図 蓬北新遺跡遺構図中央 (1/200)



第13図 薩北新遺跡遺構図南側 (1/200)

## II 遺構

### 1. 井戸址

#### 井戸址 S E 01

調査地区の北側中央部（8、16）区で検出された素掘りの井戸である。遺構掘り下げの際、湧水が激しく、壁面が崩れたため完掘できなかった。平面形はほぼ円形を呈し、規模は直径1.0m、確認できた深さは79cmを計る。出土遺物は中世土師器、珠洲である。図示した遺物は、図面3-2020・2021、図面7-2066である。

#### 井戸址 S E 02

調査地区の北側南部（10、18）区で検出された素掘りの井戸である。平面形はほぼ円形を呈し、規模は直径0.8m、深さは90cmを計る。出土遺物は、土師器、中世土師器、珠洲である。図示した遺物は、図面2-2006である。

### 2. 土坑

#### 土坑 S K 01

調査地区の北側（14、22）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.2m以上、短軸0.6m、深さ11cmを計る。南側は調査地区外へ広がる。出土遺物は弥生土器である。周辺の側溝中からは緑色凝灰岩の剥片が出土している。図示した遺物は、図面2-2009・2010・2013・2015である。

#### 土坑 S K 02

調査地区の北側（13、22）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸0.9m以上、短軸0.7m、深さ23cmを計る。また、西側はさらに調査地区外へ広がっており、南西側でS D 03に切られている。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面2-2011である。

#### 土坑 S K 03

調査地区の北側（11、19・20）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸4.15m以上、短軸2.2m以上、深さ22cmを計る。また、西側は調査地区外へ広がりを見せ、東側をピットに切られている。出土遺物は珠洲である。図示した遺物は、図面5-2047の一部である。

#### 土坑 S K 04

調査地区の北側（11、19）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は、長軸0.8m以上、短軸0.4m、深さ21cmを計る。また、東側でS D 04に切られている。遺物は出土しなかった。

#### 土坑 S K 05

調査地区的北側（10、18・19）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸4.0m以上、短軸2.8m以上、深さ6cmを計る。また、北側をS D 07に切られる。出土遺物には、弥生土器、上師器、中世土師器、珠洲がある。図示した遺物は図面4-2033、図面5-2045、図面7-2063である。

#### 土坑 S K 06

調査地区的北側中央部（9・10、17）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.8m、短

軸0.55m、深さ8cmを計る。また、SD09の中央部を切っている。出土遺物には弥生土器、緑色凝灰岩（剥片）がある。図示した遺物は、図面8-3003である。

#### 土坑SK07

調査地区的中央（9、17）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸4.5m以上、短軸0.5m、深さ11cmを計る。北西側で調査地区外へ広がりを見せるため溝となるかもしれない。また、南側をSK09に切られている。出土遺物には、弥生土器がある。

#### 土坑SK08

調査地区的中央（9、17）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.5m、短軸は1.1m、深さ7.5cmを計る。SD09を切っている。出土遺物には、弥生土器、中世土師器、青磁がある。

#### 土坑SK09

調査地区的中央（9、17）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸2.25m、短軸0.7m、深さ5cmを計る。また、SK07の南側を切っている。出土遺物には、弥生土器がある。

#### 土坑SK10

調査地区的中央（9、17）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.1m以上、短軸0.6m、深さ5cmを計る。また、北側でSK09に切られる。出土遺物には弥生土器、中世土師器がある。

#### 土坑SK11

調査地区的中央（9、16）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m以上、短軸0.7m、深さ22cmを計る。南東側は調査地区外へ広がる。また、SD09を切っている。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK12

調査地区的中央（9、16）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m以上、短軸0.6m、深さ10cmを計る。また、南側でSD11に切られている。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK13

調査地区的中央（8・9、16）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸2.0m、短軸0.6m、深さ5cmを計る。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK14

調査地区的中央（9、16）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.95m以上、短軸0.65m、深さ18cmを計る。東側で調査地区外へ広がり、溝となる可能性もある。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK15

調査地区的中央（8・9、15・16）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸2.0m以上、短軸0.3m、深さ4cmを計る。また、北側でSD12に切られている。出土遺物には、珠洲、越中瀬戸がある。

#### 土坑SK16

調査地区的中央部（8、13）区で検出された。平面形は、ほぼ円形を呈し、規模は径0.5m、深さ8cmを計る。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK17

調査地区的南側（3、4）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.1m以上、短軸0.6m以上、深さ7cmを計る。また、東側で調査地区外へ広がり、調査地区外で溝となる可能性もある。遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK18

調査地区的南端部（2・3・3）区で検出された。平面形は指円形を呈し、規模は長軸1.4m以上、短軸0.8m以上、深さ5cmを計る。また、東側で調査地区外へ広がる。遺物は検出されなかった。上部は以前に削平を受けていると思われ、検出時には浅いものであった。SK17と同じく調査地区外で溝となる可能性もある。

### 3. 溝

#### 溝SD01

調査地区的北端部で検出された。直線的に北北東から南南西に走る。規模は、長さ14.0m以上、幅は200～280cm、深さは63cmを計り、南側と北側で調査地区外へと延びている。断面形は逆台形を呈する。造構中央部で株洲が集中して出土する箇所があったが、異なる造構の切り合いは認められなかった。出土遺物には弥生土器、須恵器、中世土師器、株洲、八尾、青磁、緑色凝灰岩管上木製品、砥石がある。株洲の中には、隣接するSK03、SD02から出土したものと接合可能な遺物があった。図示した遺物は、図面2-2001・2003・2004、図面3-2027・2030、図面4-2034、2037～2039、図面5-2041・2043・2044・2046・2047の一部、2048・2050・2051・2053・2054・2056、図面6-2058～2060、図面7-2067の一部、図面8-3001・3002・3005である。

#### 溝SD02

調査地区的北側で検出された。直線的に北北東から南南西の方向に走る。規模は、長さ14.0m以上、幅80cm、深さ19cmを計る。また、南側と北側で調査地区外へ延びている。出土遺物には弥生土器、株洲、八尾、緑色凝灰岩（剥片）がある。図示した遺物は、図面3-2024、図面5-2055、図面6-2062、図面7-2067の一部である。

#### 溝SD03

調査地区的北側で検出された。直線的に北北東から南南西へ走る。規模は、長さ11.2m以上、幅40～90cm、深さ10cmを計る。また、北側と南側で調査地区外へ延びており、北側でSK02を切っている。出土遺物は弥生土器片、株洲、緑色凝灰岩（剥片）がある。

#### 溝SD04

調査地区的北側で検出された。直線的に北北東から南南西に走る。規模は、長さ8.4mにわたって確認した。幅300～340cm、深さ50cmを計る。また、北側と南側に向かって調査地区外へ延びており、西側でSK04、SD05～07、SD09を切っている。この溝は、幅が広く底面が複雑であるが、造構検出の際には切り合う造構がみられなかつたため今回は同一の造構とした。出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、株洲、縁羽口がある。図示した遺物は、図面2-2016・2019、図面3-2026、図面4-2031・2032・2036、図面5-2049、図面6-2057、図面7-2065である。

#### 溝SD05

調査地区的北側で検出された。直線的に北西から南東方向に走る。規模は、長さ3.0m以上、幅60～90cm、深さ16cmを計る。また、北西側で調査地区外へ延びており、南東側でSD01とピットに切られている。遺物は検出されなかった。また、SD06と隣接し、平行して走っており、造構覆土が同じ土層であることから調査地区外で1つになる可能性も考えられる。

#### 溝SD06

調査地区的北側で検出された。直線的に北西から南東方向に走る。規模は、長さ3.4m以上、幅50~90cm、深さ15cmを計る。また、南東側でSD04に切られ、北西側で調査地区外へ延びる。SD05とは調査地区外で1本の溝となる可能性もある。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD07

調査地区的北側で検出された。直線的に西北西から東南東方向に走る。規模は、長さ3.5m以上、幅110~130cm、深さは9cmを計る。南東側でSD04に切られ、北西側で調査地区外へ延びる。出土遺物には、弥生土器、珠洲がある。

#### 溝SD08

調査地区的北側で検出された。直線的に南北方向に走る。規模は長さ3.5m以上、幅20~100cm、深さ8cmを計る。また、北側で調査地区外へ延びる。出土遺物には、弥生土器がある。

#### 溝SD09

調査地区的中央部で検出された。東から南南東方向へ円弧を描くように巡っている。規模は長さ10.5m以上、幅30~50cm、深さ10cmを計る。また、北側でSD04に切られ、中央部でSK06とSK08に、南側でSK11とSD11に切られている。出土遺物には、弥生土器、須恵器、中世土師器、珠洲、緑色凝灰岩（剥片）がある。

#### 溝SD10

調査地区的中央部で検出された。直線的に南北方向へ走る。規模は、長さ8.0m以上、幅50~70cm、深さ7cmを計る。また、中央でSD11に切られ、南側でSD12に切られ、調査地区外へ延びる。出土遺物には弥生土器、珠洲、緑色凝灰岩（剥片）がある。

#### 溝SD11

調査地区的中央部で検出された。直線的に北西から南東方向へ走る。規模は長さ5.6m以上、幅60cm、深さ18cmを計る。また、SK12、SD09・10を切っている。北西側と南東側で調査地区外へ延びる。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD12

調査地区的中央部で検出された。直線的に北西から南東方向へ走る。規模は、長さ5.4m以上、幅40~70cm、深さ12cmを計る。また、SK15、SD10を切っている。北西側と南東側で調査地区外へ延びる。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD13

調査地区的中央部で検出された。直線的に北西から南東方向へ走る。規模は長さ5.5m以上、幅90~160cm、深さ13cmを計る。北西側と南東側で調査地区外へ延びる。出土遺物には、弥生土器、須恵器、珠洲がある。図示した遺物は、図面3-2025・2028である。

#### 溝SD14

調査地区的中央部で検出された。直線的に南北方向へ走る。規模は、長さ3.5m以上、幅70~90cm、深さ4cmを計る。また、南側でSD15に切られる。北側で調査地区外へ延びる。遺物は出土しなかった。

#### 溝SD15

調査地区中央部で検出された方形に巡る溝である。南側をSD16に切られており、北側でSD14を切っている。全体の大きさは不明である。規模は、長辺6.0m以上、短辺約4.0m、幅45~80cm、深さ11cmを計る。溝は削平を受けた為か、極めて浅く、東側で途切れている。溝覆土中からは、中世土師器1点が完形で出土

している。この溝の内側では、長辺約6.0m、短辺約3.0mの長方形の地山が検出されている。しかし、遺構上部は削平されていると思われ、遺構は検出されなかった。この他の出土遺物には、弥生土器、珠洲がある。図示した遺物は、図面3-2022である。

#### 溝 S D16

調査地区的中央で検出された。直線的に西北西から東南東へ走る溝である。規模は、長さ15.0m以上、幅40~100cm、深さ13.5cmを計る。また、北側でS D15を切り、さらに東側では黒褐色土からなる落ち込みの上層を切っている。東側と西側で調査地区外へ延びる。この黒褐色土の落ち込みは南側で検出されたSD18と遺構覆土が似ており、方向も溝の直線上に位置するため、SD18の続きである可能性が高いと思われる。しかし、検出範囲が狭く、全体を把握したわけではないので断定はできない。出土遺物には、弥生土器、中世土師器がある。図示した遺物は、図面2-2005である。

#### 溝 S D17

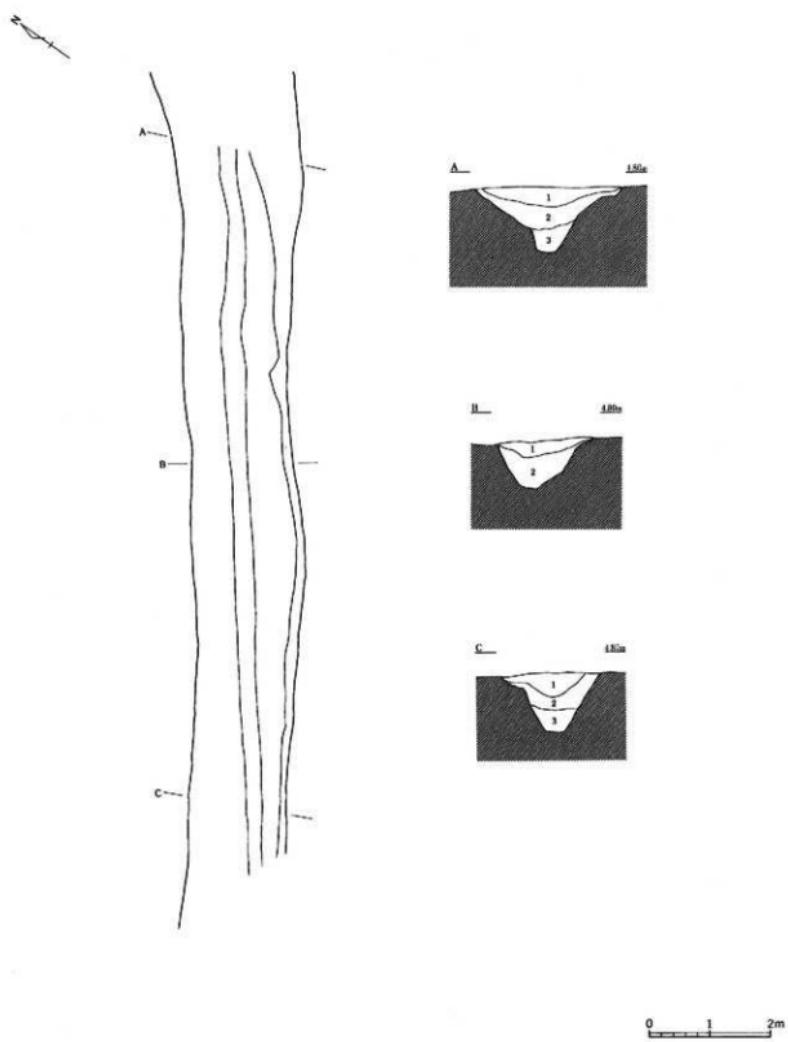
調査地区的南側で検出された。直線的に東北東から西南西方向に走る。規模は、長さ2.4m以上、幅30~40cm、深さ11cmを計る。また、西側で調査地区外へ延びる。出土遺物には、中世土師器がある。

#### 溝 S D18

調査地区的南側で検出された。直線的に北東から南西方向へ走る。規模は、長さ11.0m以上、幅120~180cm、深さ86cmを計る。当初の予想より大規模な遺構となったため、可能な範囲で北東、南西で拡張した。その結果、断面が逆台形の溝であり、さらに北東と南西方向へ延びることが確認できた。土層は基本的に3層に分かれ次のとおりとなる。第1層；黒色粘質土。第2層；褐色粘質土（地山ブロック、炭化物粒を含む）。第3層；黒褐色粘質土（炭化物粒を含む）。出土遺物には、弥生土器、中世土師器がある。これらの遺物のうち、確実に遺構に伴うものが少なく、周囲の遺構覆土と比較した上で弥生時代のものと考えている。図示した遺物は、図面2-2002・2008・2014である。今後の調査で検討が必要であるが、この溝がSD16の東側で検出された落ち込みに統くとすれば、長さ39.0m以上の大規模なものとなる。

#### 溝 S D19

調査地区的南側で検出された。直線的に西北西から東南東方向に走り、東側では2又に分かれている。規模は、長さ3.2m以上、幅140cm、深さ5cmを計る。西側と東側で調査地区外へ延びる。出土遺物には、中世土師器、珠洲、伊万里がある。



第14図 驚北新遺跡溝SD18実測図(1/80)

### III 遺 物

#### 1. 土器類

##### 弥生土器

高杯 図面2-2001~2007。2001は高杯の杯部である。2002・2003・2005~2007は高杯の脚部である。2002は、外面中央に2条の沈線が巡っている。2004は高杯の柱状部である。2007は小型の脚部である。

壺 図面2-2009・2010。2009是有段口縁の壺の口縁部である。内外面ともヘラ磨きの後、赤彩を施してある。2010は、壺の把手とした。

壺 図面2-2013。小壺の有段口縁の壺である。口縁部内面は段が付いておらず、そのまま口端部へ延びる。胴部は倒卵形で、底部は穿孔されている。口縁部は内外面とも横ナデ、胴部外面は刷毛目で中央や下部に横方向に施してある。内面はヘラ削りである。

壺口縁部 図面2-2008・2011・2012。有段口縁の壺の口縁部である。2008は口縁部が外上方に大きく開いている。2011は口縁部から肩部にかけてである。口縁部は内外面とも横ナデ、肩部は内外面とも刷毛目が施してある。

壺底部 図面2-2014~2019。壺の底部である。2014は胴下部内外面ともに刷毛目が施してある。2019は内面の調整がヘラ削りである。

##### 土師器

皿 図面3-2020~2022。2020・2021は非クロクロ調整、2022はロクロ調整の皿である。2020は口縁部の外面端部にナデが施してあり、内外面に煤が付着している。2021は内面に煤が付着する。2022は底部外面に糸切りが施されている。

##### 須恵器

杯A 図面3-2023。高台の付かない杯身である。

杯B 国面3-2024~2026。高台の付く杯身の底部片である。

杯蓋 国面3-2027・2028。2027は杯蓋の大井部片である。天井部中央と端部は欠損しているが、つまみがつくと思われる。2028は杯蓋の天井部、端部片である。

壺 国面3-2029。壺の口縁部で、外上方に広がる。

##### 灰釉陶器

壺底部 国面3-2030。壺瓶類の高台付の底部である。

##### 珠洲

播鉢 国面4-2031~2036。播鉢の口縁部である。2031は、口縁部がやや内寄気味に外上方へ広がり、口端部外面に面を取っている。2032は外上方へ広がり、口端面は水平に面を取っている。2033は外上方へ直線的に延び、口端部は水平に面を取っている。7条のオロシ目を一部確認した。2034・2035は口端部の外面を押さえ、端部を水平につまみ出している。口端部内面に波状文が巡っている。2035の内面はオロシ目が密集している。2036は内寄気味に上方へ延び、ほぼ直立しており、口端部は外面に水平に面を取っている。

壺 国面4-2038~2040。2038は壺の口縁部である。口縁部が外上方に広がり、口端部外面で端部を嘴状につまみ出している。2039は壺の肩部で、上部には連弁座が巡り、下部には6条の波状文が巡る。2040は壺

の胴下部である。

擂鉢底部 図面4-2037、図面5-2041-2056。擂鉢の底部である。2037は波状の8条のオロシ目がつく。2041はオロシ目が付く。2042は9条、2043は7条、2049は14条、2050は7条、2051は11条のオロシ目がつく。2055・2056は、壺等の可能性もあるが擂鉢とした。

甌 図面6-2057-2062、図面7-2063-2067。甌の口縁部および胴上部である。2057・2058の口縁部は先端が嘴状になっている。2057の口頭部は強く屈曲し外反する。2058は口縁部が外上方へ外反し、内面に指頭圧痕があり外面に平行叩き目が見られる。2059は口塑部が垂直に延び、内面に指頭圧痕、外面に叩き目が平行につく。2060・2061は口縁部は肥厚し、内面に指頭圧痕がある。外面に平行な叩き目がつく。2062・2063の口頭部は、くの字状に屈曲する。2062は口端部が角縁状に肥厚する。胴上部外面に荒い叩き目がつく。2063は胴上部内面に指頭圧痕、外面に荒い叩き目が右下がりに付く。2064・2065は口端部が角縁状に肥厚する。2065は胴上部の内部には指頭圧痕がつき、外面は細かい右下がりの叩き目が付く。2066は口頭部が緩く外反し、口縁部が肥厚する。胴上部内面には指頭圧痕、外面に右下がりの叩き目が付く。2067は口頭部が極めて緩やかに外反し、口縁部が肥厚する。胴上部内面には指頭圧痕、外面に荒い叩き目が付く。

#### 瀬戸美濃

皿底部 図面3-2068。オロシ皿の底部である。

#### 越中瀬戸

皿底部 図面3-2069・2070。2069は皿の胴底部である。内外面に鉄釉が施してあり、黒痕があるが文字の判別は不明である。2070は擂鉢の口縁部分である。鉄釉が施してあり、オロシ目も見られる。

## 2. 石製品

緑色凝灰岩管玉未製品 図面8-3001。研磨され、断面が多角柱状となる。径は4.0mm、長さは1.0cm、濃緑色をしている。

#### 緑色凝灰岩管玉形制品

図面8-3002・3003。緑色凝灰岩の形制品である。

3002；径5.2mm、長さ1.18cm、濃緑色である。

3003；径4.5mm、長さ1.05cm、濃緑色である。

#### 砥石

図面8-3004-3006。3004は砂岩製で、使用面は2面あり、他の面は欠損面である。長さ5.45cm、幅5.98cm、厚さ4.22cmである。3005は砂岩製の砥石片である。使用面は3面あり、他の面は欠損面となる。長さ3.90cm、幅4.55cm、厚さ2.20cmである。3006は緻密な安山岩製の砥石片である。使用面は1面のみである。長さ5.80cm、幅2.55cm、厚さ3.10cmである。

## IV 結語

能町地区では、宅地化が進展し、遺跡の性格と範囲の把握が困難な状況にある。今回の調査では、限られた範囲であるが、弥生時代、中世を主体とした遺構、遺物を確認することができた。調査地区的北側を中心にして多くの遺構が広がることから、調査地区的北側に遺跡の中心部があると思われる。今回検出した遺構のうち、遺構の一部は南北方向、または南西～北東方向へ伸びることから、JR水見駅能町駅構内や、調査地区周辺に遺構、遺物が広がっている可能性は極めて高いと思われる。なお、今回の調査地区が細長い形狀のため、土坑、溝としたものの中には、今後の調査次第では他の遺構となる可能性のものがある。

### 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としたのは、土坑3基（SK01・02・13）、溝2条（SD08・18）である。出土遺物は弥生時代後期末のものが主体である。全体として月影式～白江式の範疇に入ると思われる。今回検出された遺構は、調査地区内で散在しているに止まるが、中世の遺構などにこの時期の遺物が混在していることから、かつては、広範囲に分布していたと思われる。南側で検出されたSD18は、深さが1m以上を計る大規模なものである。更に調査地区東側、南西側へ広がりを見せる。しかし、検出範囲が少ないので、全体像やその性格は不明である。また、調査地区北側で散発的であるが、緑色凝灰岩の管上木製品、形剤品が出土している。玉抵石と思われる遺物も見られることから、周辺に加工に関連した遺構が存在する可能性もある。

### 奈良・平安時代の遺構と遺物

この時期と思われる遺構は検出されなかった。遺物の多くは、調査地区中央部から北側を中心に、他の時期の遺構より出土している。時期的には平安時代前半に集中している。

### 中世の遺構と遺物

中世の遺構としたものは、井戸址2基（SE01・02）、土坑2基（SK03・06）、溝9条（SD01～04・07・09・15～17）がある。この時期の出土遺物は中世全般に渡っており、今回の遺物の大半はこの時期のものが占める。中でも、珠洲を中心に、南北朝から室町時代にかけての遺物がまとまって出土している。調査地区北側で検出されたSK03とSD01・03は、中世の遺物で相互に接合可能な遺物がある。これらは、時期を同じくする遺構であり、南北方向に走る溝として相互の関連が考えられる。

### 近世の遺構と遺物

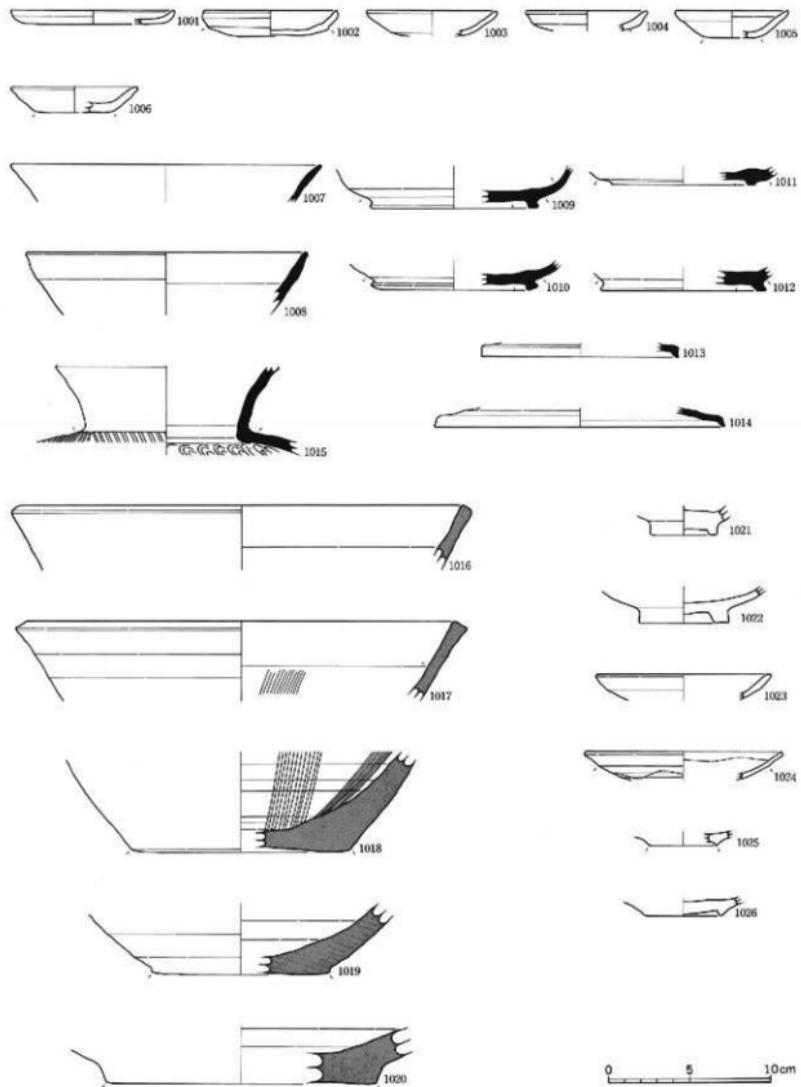
近世の遺構としたのは、土坑1基（SK04）、溝1条（SD10）である。どちらの遺構も浅く、小規模なものである。遺物は、表土中より散発的に出土し、出土した数は少ないものの、越中瀬戸を中心に伊万里なども見られる。時期としては近世全般に渡るものと思われる。平成6年度の分布調査では、当遺跡内出土と伝えられる近世の瓦が紹介されており、周辺にこの時期の遺構が存在する可能性がある。

報告書抄録

ふりがな	しのいき ちらうそねゆうじ
書名	市内遺跡調査概報
副書名	平成7年度赤祖父羽座間遺跡、平成8年度鷺北新遺跡の調査
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第38冊
編著者名	荒井 降
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-0057 富山県高岡市広小路7-50
発行年月日	1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所 在 地	コ 一 ド	北 緯 ° °'	東 経 ° °'	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
	市町村 遺跡番号						
赤祖父羽座間 遺跡 定田地区	富山県高岡市 016202	202142	36° 01' 48"	137° 01' 37"	平成7年 5月9日 ~ 5月31日	756m <sup>2</sup>	事業所造成
鷺北新遺跡 区画整理地区	富山県高岡市 016202	202126	36° 01' 15"	137° 02' 26"	平成8年 6月3日 ~ 7月16日	683m <sup>2</sup>	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
赤祖父羽座間 遺跡 定田地区	集落跡	古墳~中世	井戸址 1基 溝 12条	土師器・須恵器 珠洲・近世陶磁器			
鷺北新遺跡 区画整理地区	散布地	弥生~中世	井戸址 2基 土坑 18基 溝 19条	弥生土器・土師器 珠洲 緑色凝灰岩管玉			

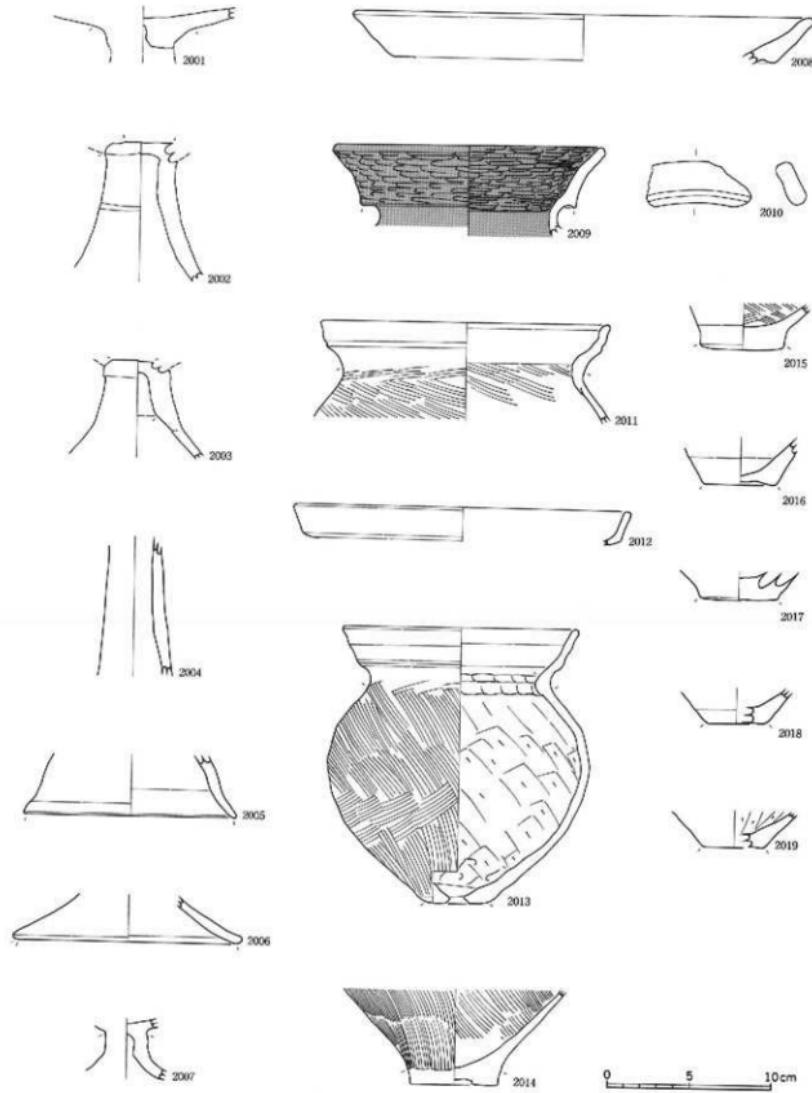
図面・図版

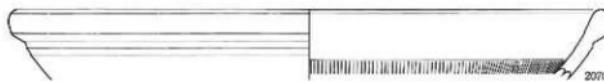
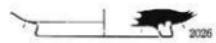
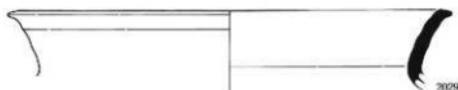
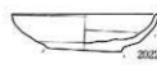
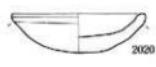


土師器；1001～1006、須恵器；1007～1015、珠洲1016～1020、青磁；1021、  
越中瀬戸；1022～1026

縮尺 1 / 3

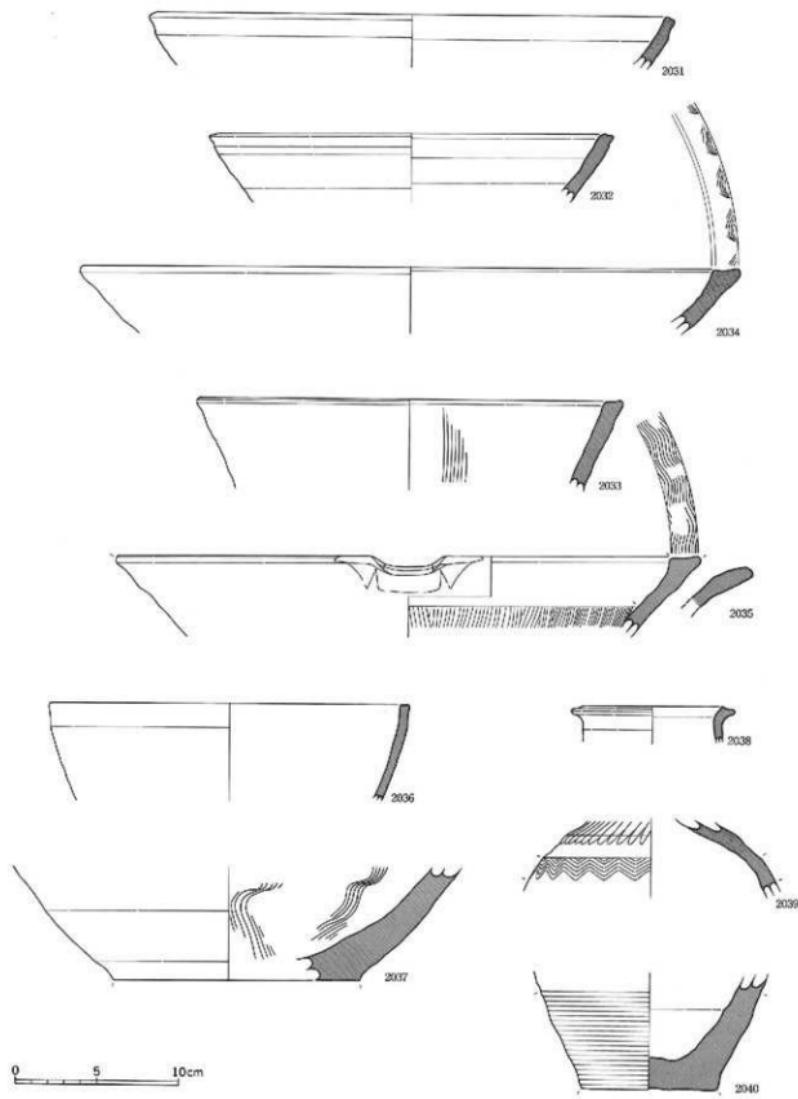
図面二  
遺物実測図  
鷺北新遺跡

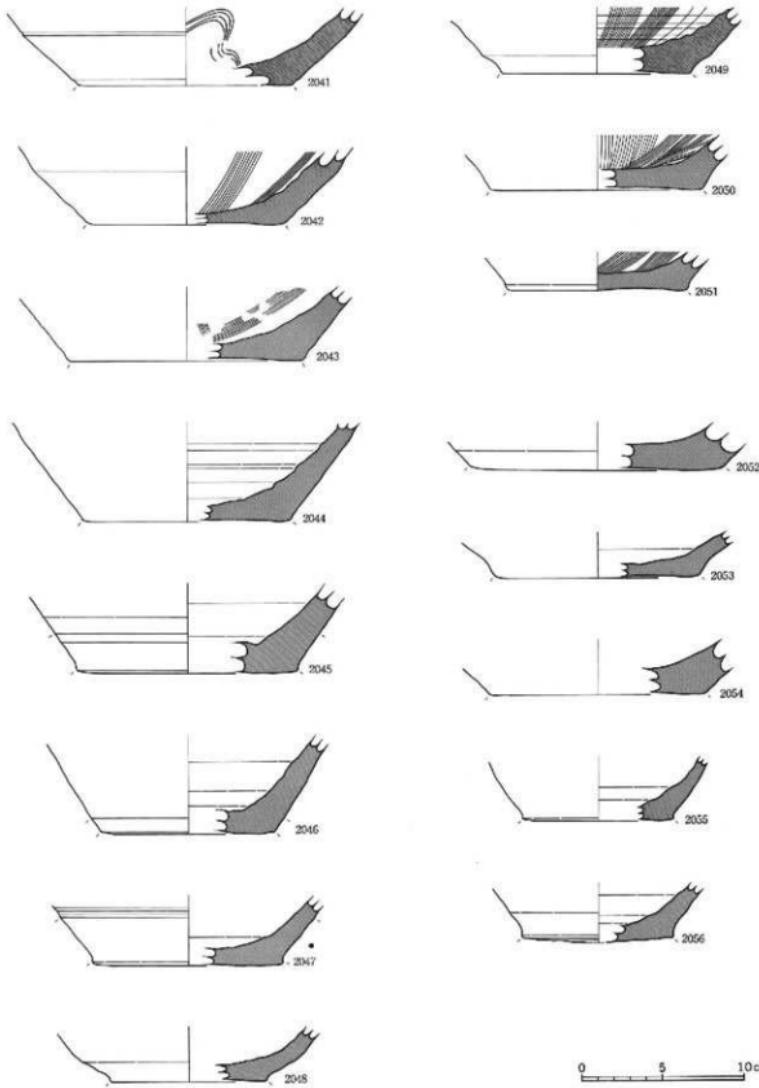


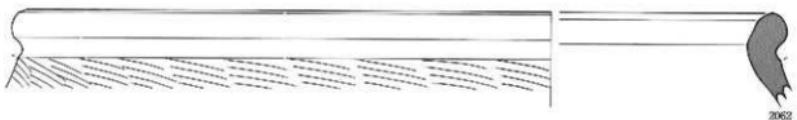
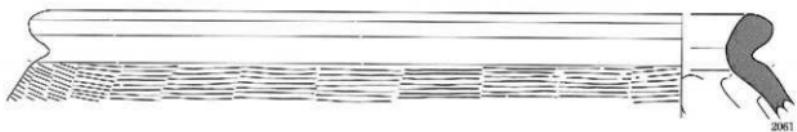
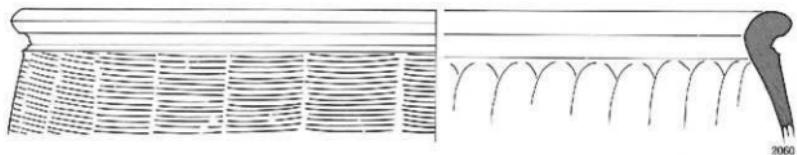
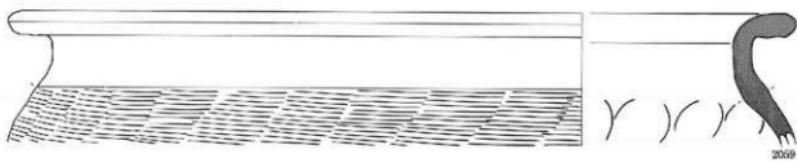
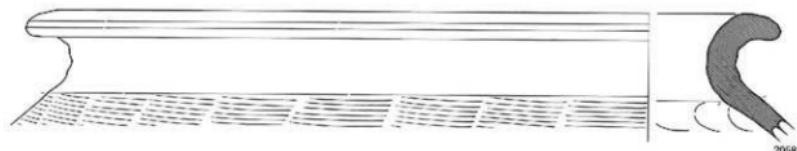


0 5 10 cm

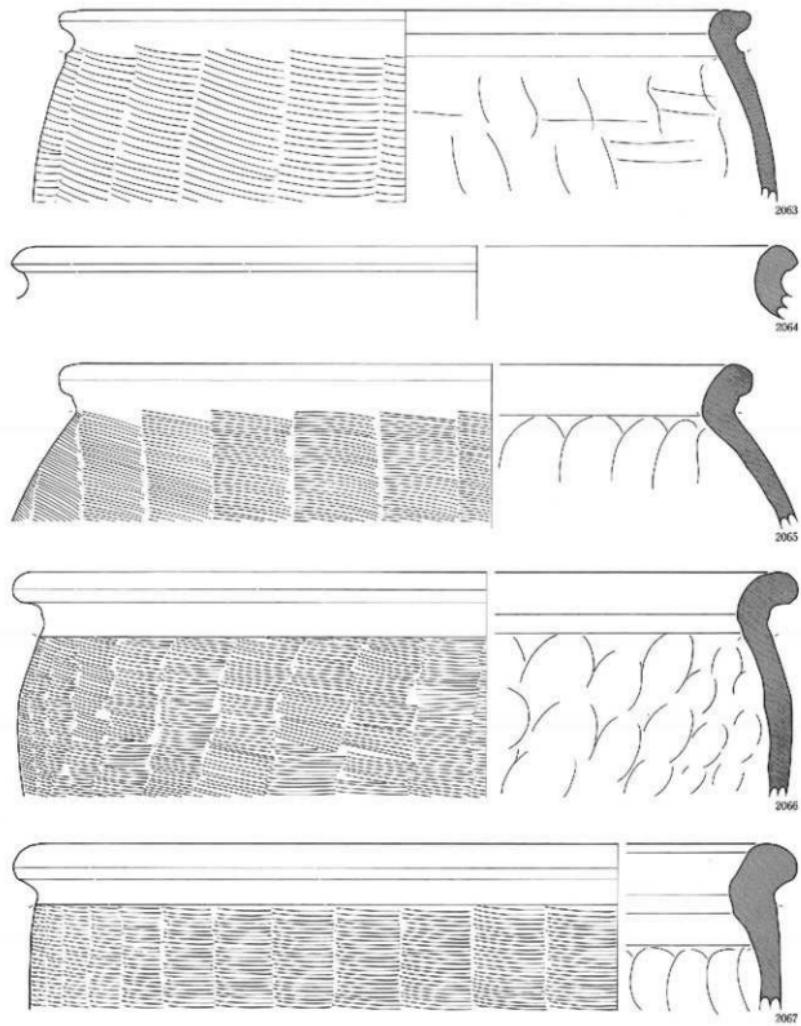
土師器；2020～2022、須恵器；2023～2029、灰釉陶器；2030、頬戸美濃；2068、越中瀬戸；2069・2070 檻尺 1／3



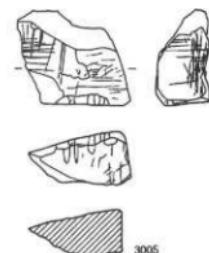
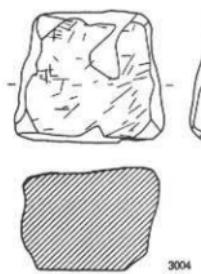
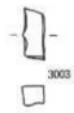
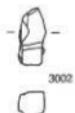




0 5 10cm



0 5 10cm



0 5 10 cm

管玉木製品；3001、管玉形割品；3002・3003、砾石；3004～3006

縮尺 1/2



1. 調査地区全景（南）



2. 調査地区全景（北西）

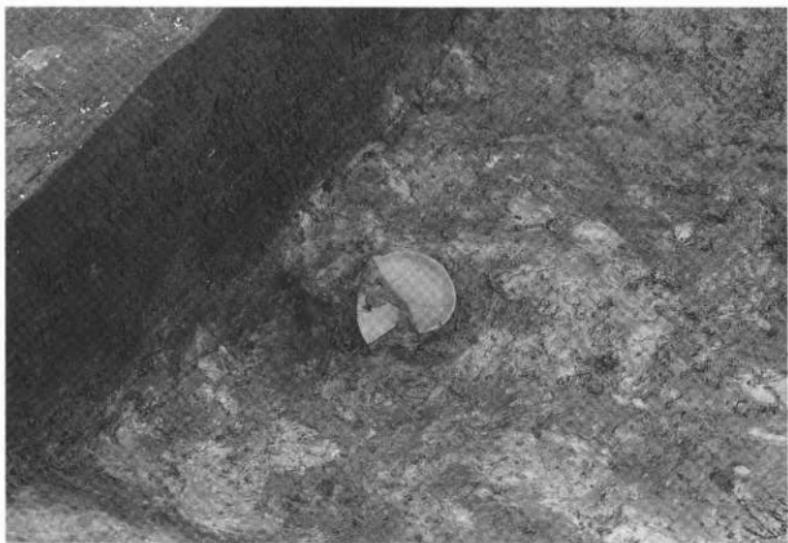


1. 溝 S D01全景（北西）

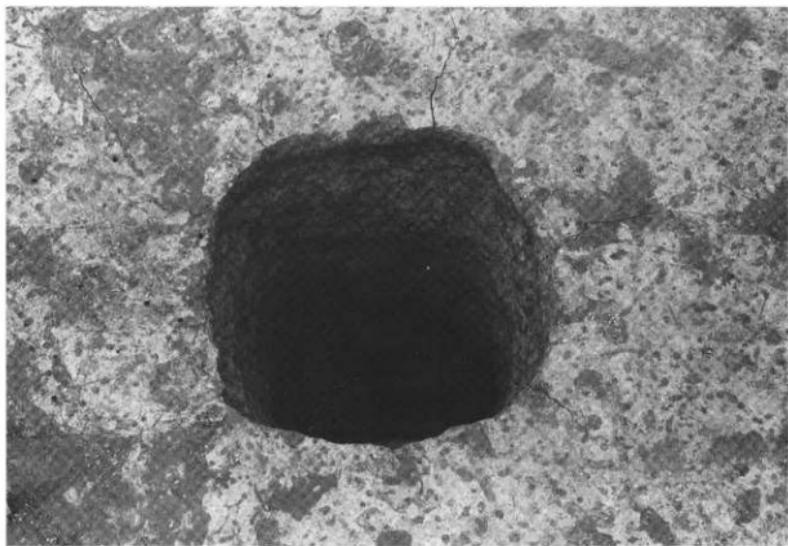


2. 溝 S D01全景（南西）

図版三 遺構 赤祖父羽座間遺跡



1. 溝S D01遺物出土状態近景（西）



2. 井戸址S E01全景（南）

図版四  
遺構  
赤祖父羽座間遺跡



1. 調査風景（南西）



2. 調査風景（南）



3. 調査風景（北西）



1. 調査地区遠景（南）



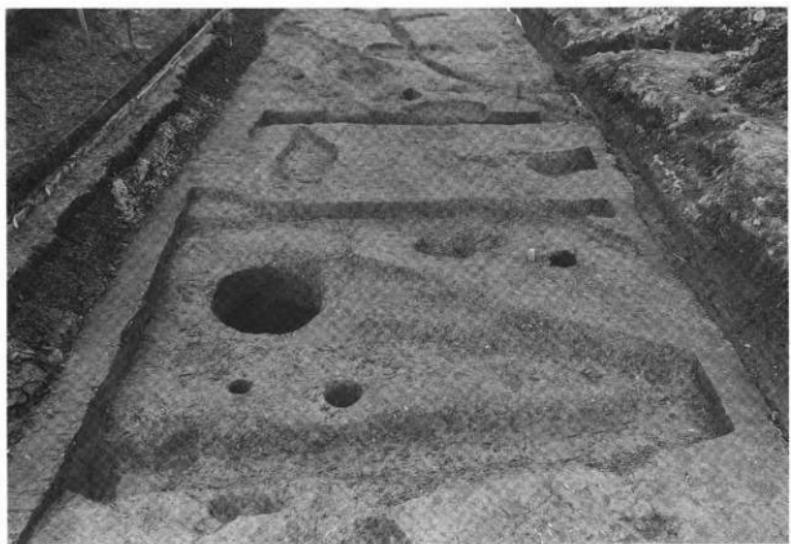
2. 調査地区全景（南）



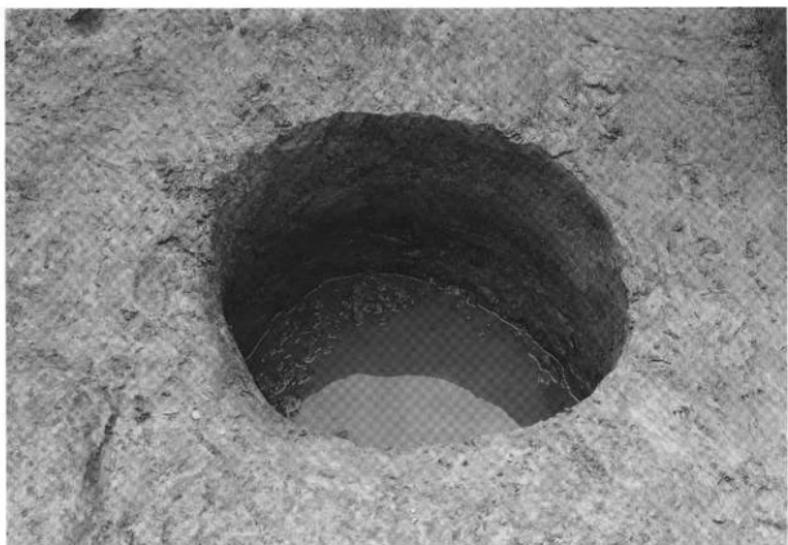
1. 調査地区全景（北東）



2. 調査地区北側近景（南）



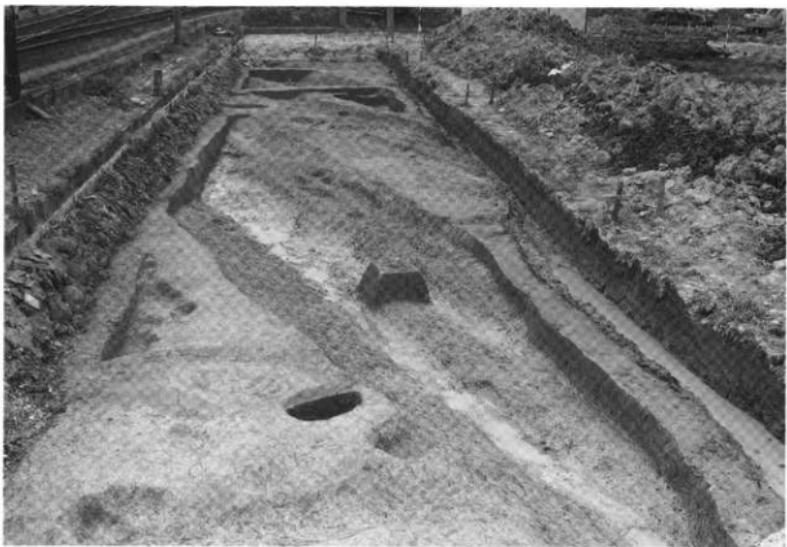
1. 井戸址 S E01遠景（南）



2. 井戸址 S E01全景（北）



1. 溝SD 02全景（南東）



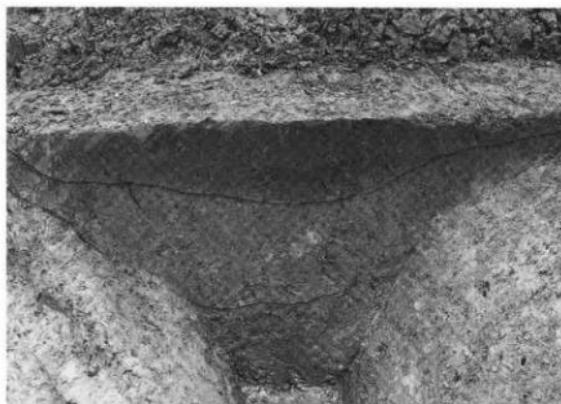
2. 溝SD 02全景（南）



1. 潟 S D18全景（北東）



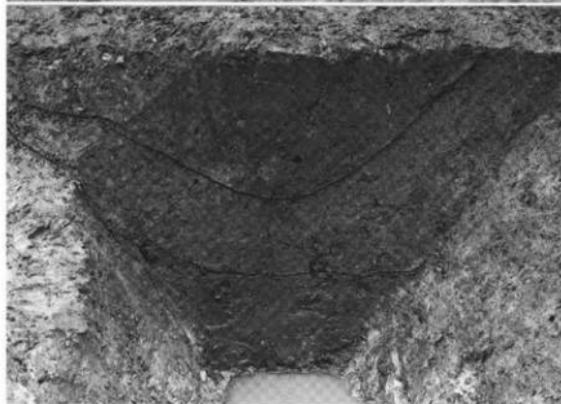
2. 潟 S D18全景（南）



1. 溝 S D18北東端土層斷面（南西）



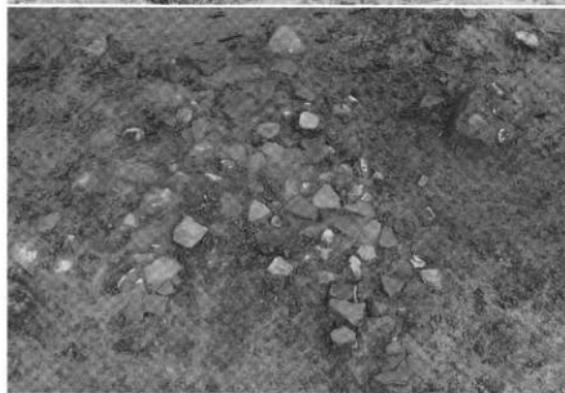
2. 溝 S D18中央土層斷面（南西）



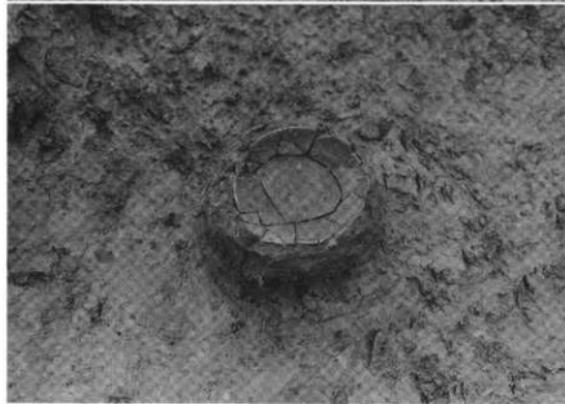
3. 溝 S D18南西端土層斷面（北東）



1. 土坑S K02遺物出土狀態  
(南西)



2. 淋S D01遺物出土狀態  
(南西)



3. 淋S D15遺物出土狀態  
(南)



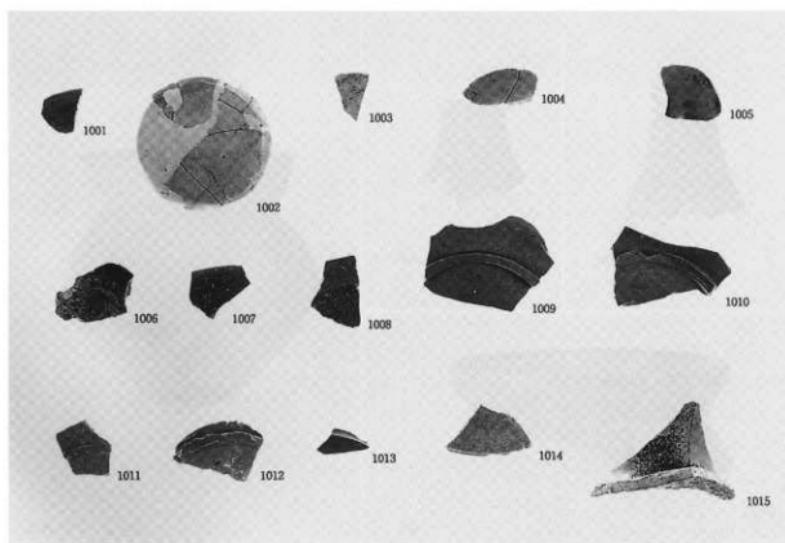
1. 調査風景（南東）



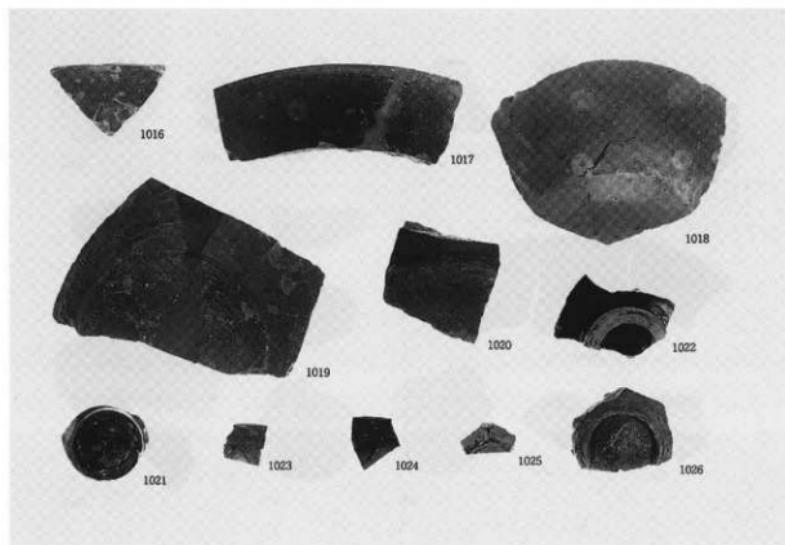
2. 調査風景（南東）



3. 調査風景（南西）



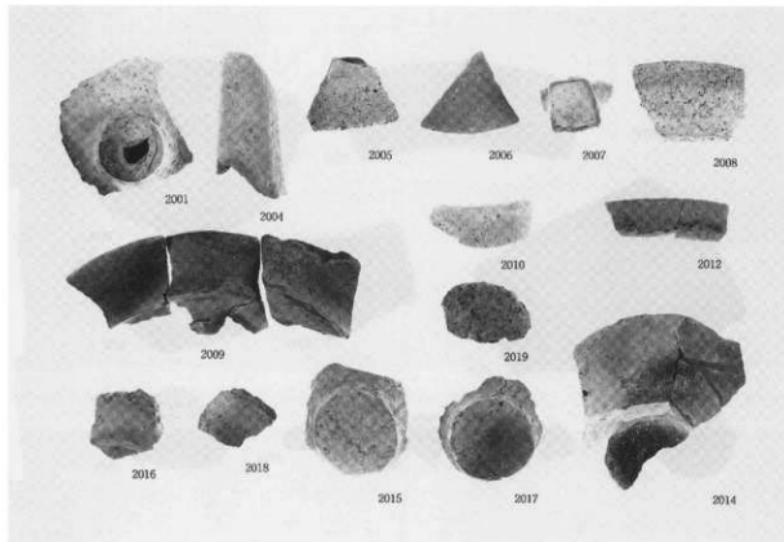
1. 土師器、須恵器



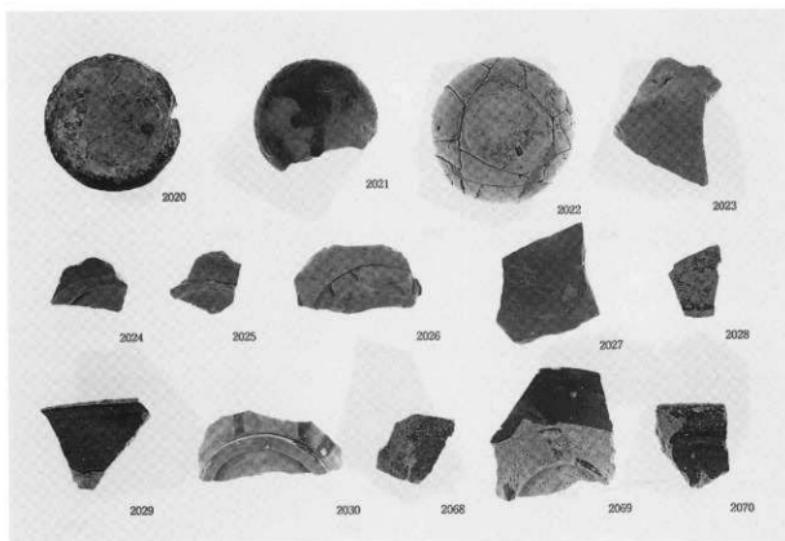
2. 珠渦、青磁、越中漬口



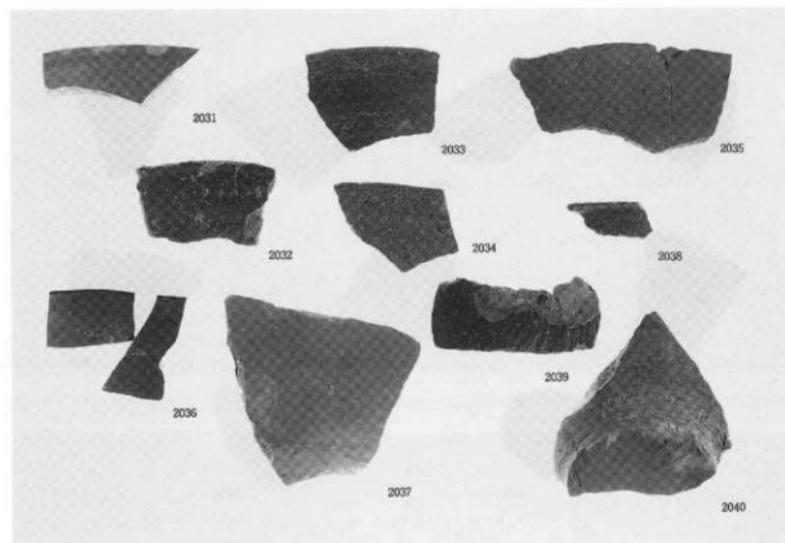
1. 弥生土器



2. 弥生土器



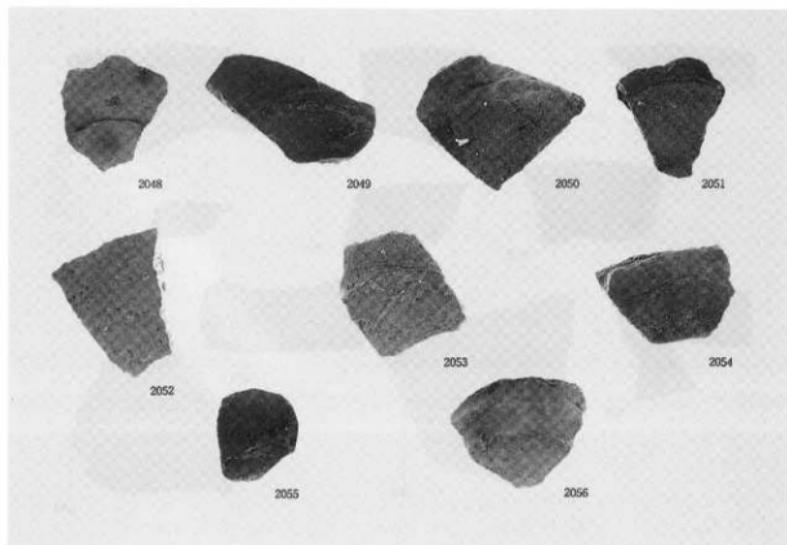
1. 上師器、須惠器、灰華陶器、瀬戸美濃、越中瀬戸



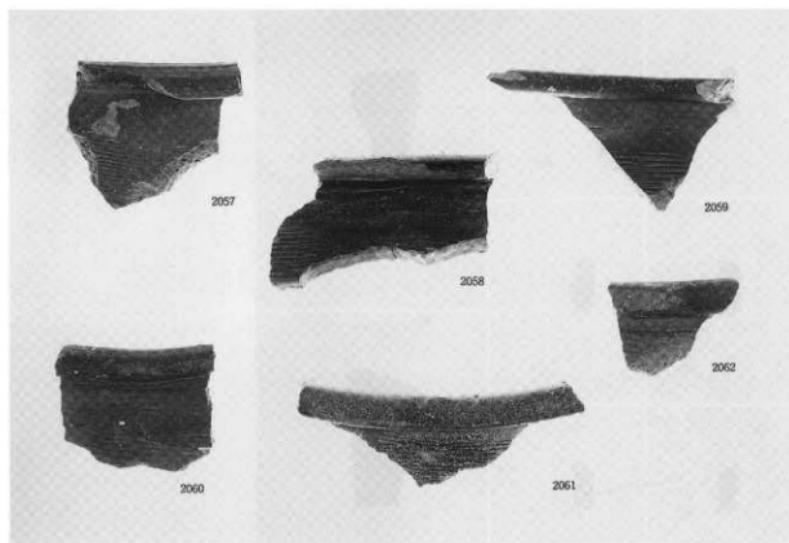
2. 珠珠



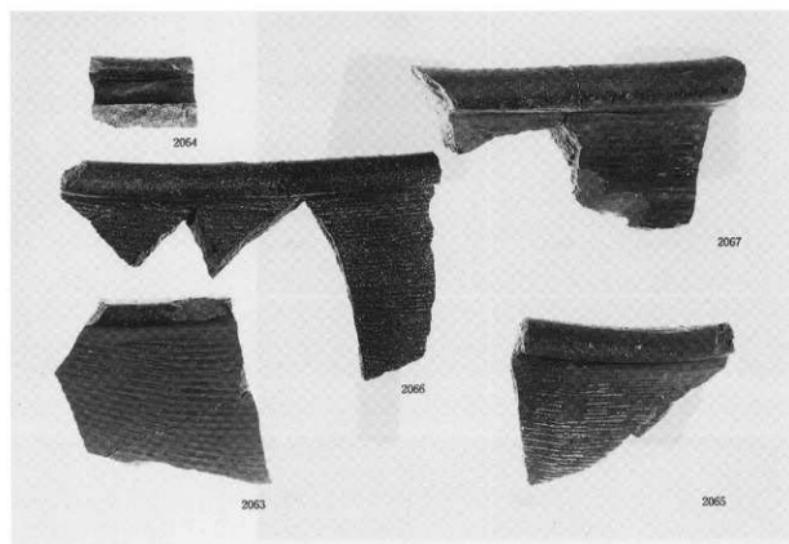
1. 珠洲



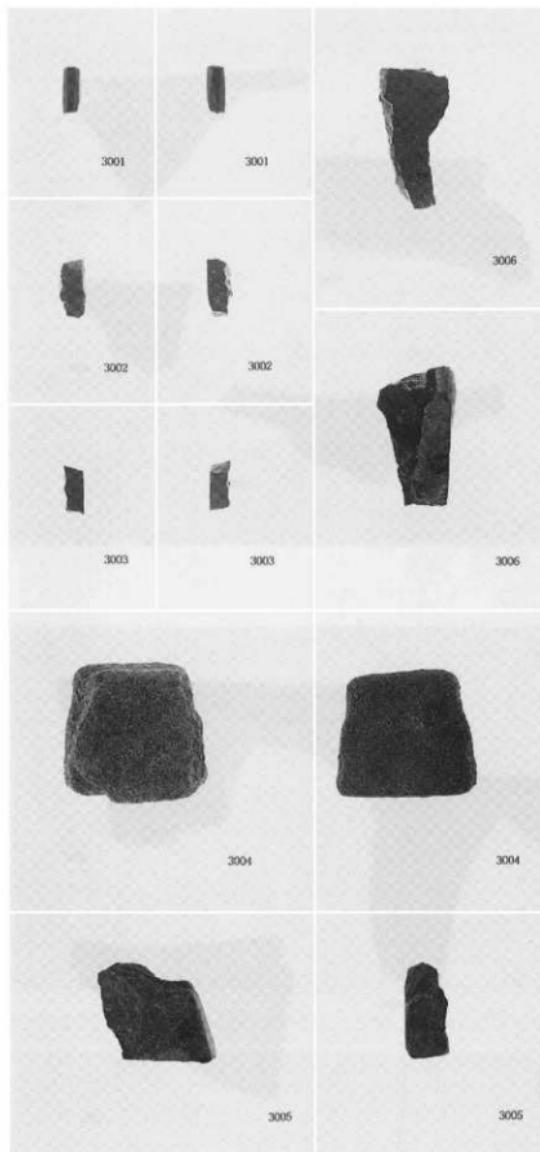
2. 珠洲



1. 珠洞



2. 珠洞



石製品

---

高岡市埋蔵文化財調査概報第38冊  
市内遺跡調査概報Ⅵ

発行者 高岡市教育委員会  
富山県高岡市広小路7番50号

1998年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社  
富山県高岡市利屋町3

---